

綾瀬市教育委員会会議録

令和6年7月定例会

令和6年7月26日開議

綾瀬市教育委員会

出席委員

教	育	長	袴田	毅君
教	育	長職務代理者	田中	恵吾君
委		員	平出	恵子君
委		員	亀ヶ谷	由美子君
委		員	齊藤	隆訓君

事務局職員

教	育	部	長	長谷川	裕司君						
参	事	兼	教	育	総務課長	大矢	博之君				
参	事	兼	学	校	教	育	課長	堺	千津子君		
学	校	給	食	セ	ン	タ	ー	所	長	比留川	晋一君
参	事	兼	教	育	指	導	課	長	春木	純子君	
参	事	兼	教	育	研	究	所	長	渡邊	倫康君	

書記

教	育	総	務	課	総	務	担	当	主	幹	奥	田	壘斗		
教	育	総	務	課	総	務	担	当	主	任	主	事	野	尻	裕一

令和6年綾瀬市教育委員会会議7月定例会議事日程

令和6年7月26日（金）午後1時30分開議

日程第1		会議録署名委員の指名について
------	--	----------------

議案

日程第2	第20号議案	令和7年度使用中学校教科用図書の採択について
日程第3	第21号議案	令和7年度使用小学校教科用図書の採択について
日程第4	第22号議案	学校教育法附則第9条の規定による令和7年度使用教科用図書の採択について

報告

日程第5	第8号報告	教科用図書採択に関する要望について
日程第6	第9号報告	令和6年度第1回綾瀬市心身障害児童・生徒就学指導委員会で判定された児童・生徒の学校（学級）指定の報告について

午後１時３０分 開会

○教育長（袴田毅君）

あらかじめ御報告をさせていただきます。

本日の会議には、傍聴の申し出者が定員の１５名を超えておりますが、綾瀬市教育委員会傍聴人規則第３条第３項の規定により、申し出者については傍聴を許可いたしましたので、御報告申し上げます。

なお、会議途中で傍聴の希望があった場合は、随時、入室を許可したいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、これより傍聴人の入室を認めます。

（ 傍聴人入室 ）

○教育長（袴田毅君）

ただいまの出席者は５名であります。

定足数に達しておりますので、これより、綾瀬市教育委員会会議７月定例会を開会いたします。

○教育長（袴田毅君）

「日程第１ 会議録署名委員の指名」をいたします。会議録署名委員に、亀ヶ谷委員を指名いたします。

○教育長（袴田毅君）

議題に入ります前に、本日の議事日程についてお諮りいたします。

「日程第６ 第９号報告 令和６年度第１回綾瀬市心身障害児童・生徒就学指導委員会で判定された児童・生徒の学校（学級）指定の報告について」は、個人情報が含まれるため、綾瀬市教育委員会会議規則第８条第１項第３号の規定により、非公開審議にしたいと存じます。

お諮りいたします。本件を非公開審議とすることについて、賛成の委員の挙手を求めます。

（ 委員の挙手確認 ）

○教育長（袴田毅君）

挙手全員であります。

よって第９号報告は、非公開審議とすることに決しました。

なお、「日程第５ 第８号報告 教科用図書採択に関する要望について」は、第２０号議案の教科用図書採択を行う前に報告させていただきます。

本日の審議は長時間に及ぶことが予想されますので、適宜、休憩を挟みながら審議を進めてま

いりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○教育長（袴田毅君）

「日程第5 第8号報告 教科用図書採択に関する要望について」、この件を議題といたします。

それでは、本件に関し説明を求めます。教育部長、お願いいたします。

○教育部長（長谷川裕司君）

それでは、「第8号報告 教科用図書採択に関する要望について」、御説明いたします。

これから御審議いただきます中学校教科用図書の採択に当たり、2件の要望書が提出されましたので御報告するものでございます。

それでははじめに、令和6年7月定例会報告書の2ページを御覧ください。

「育鵬社教科書に関する法律家4団体意見書」でございます。

この要望は、神奈川労働弁護団、社会文化法律センター神奈川支部、青年法律家協会弁護士学者合同部会神奈川支部、自由法曹団神奈川支部より提出されたものでございます。

続きまして、12ページを御覧ください。「綾瀬市管内中学校における『歴史教科書』の採択に関する要望書」でございます。

この要望は、在日本大韓民国民団神奈川県地方本部より提出されたものでございます。要望内容・要望の趣旨等、詳細な内容につきましては、お手元の報告書を御覧いただきたいと思います。

本2件につきましては、請願や陳情ではなく要望として提出されております。要望につきましては、請願等のように会議への付議や採択について教育委員会会議規則等に規定されておりましたが、このあと、御審議いただきます議案に係る内容の要望であるため、ここで報告をさせていただきます。

以上で説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○教育長（袴田毅君）

本件につきましては、ただいま説明のありましたとおり、請願等とは異なりますが、このあと審議を行う教科用図書の採択に関する要望であるため、定例会において報告をさせていただいたものでございます。

以上で、第8号報告を終了いたします。

○教育長（袴田毅君）

「日程第2 第20号議案 令和7年度使用中学校教科用図書の採択について」、この件を議

題といたします。

それでは、本件に関し説明を求めます。教育部長、お願いいたします。

○教育部長（長谷川裕司君）

それでは、「第20号議案 令和7年度使用中学校教科用図書の採択について」、御説明いたします。

議案書の2ページを御覧ください。

提案理由でございますが、中段に記載のとおり、令和7年度使用中学校教科用図書を採択するため、綾瀬市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第2条第1項第14号の規定により提案するものであります。

小・中学校で使用する教科用図書は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律の規定により、種目ごとに一つの教科用図書を採択することになっており、採択されたものは、同法施行令で4年間使用することが定められております。

今回は、令和7年度から4年間使用する中学校の教科用図書の採択を行うものでございます。

採択に当たりましては、市の教科用図書採択方針に基づき、教科用図書採択検討委員会の調査・研究結果を踏まえ、種目ごとに一つの教科用図書を市教育委員会で決定するものでございます。

令和7年度使用中学校教科用図書採択に係るこれまでの経過でございます。

教育委員会会議5月定例会で、綾瀬市立学校教科用図書採択方針を御審議いただき、決定いたしました。

教科用図書採択検討委員会の調査研究結果につきましては、大和、海老名、座間及び綾瀬の4市で組織する合同調査会からの意見や綾瀬市の調査員会からの意見、各中学校での教科書巡回展示の際に寄せられた学校からの意見、6月14日から27日まで市役所庁舎6階で開催した教科書展示会での閲覧者の感想・意見を参考としております。

教科用図書採択検討委員会において審議を重ねた結果を、「検討結果報告書」として7月10日にまとめ、7月18日には教科用図書採択検討委員会と教育委員の皆様で検討結果報告書を基に御協議いただきました。

令和7年度使用中学校教科用図書の一覧表につきましては、議案書の3ページ・4ページを御覧いただきたいと存じます。

以上で説明とさせていただきます。よろしくをお願いいたします。

○教育長（袴田毅君）

それでは、これより本件に関しまして審議に入ります。

教育委員の皆様におかれましては、中学校で使用する全種目の教科書採択に当たり、時間をか

けて教科書を御覧いただき、また、綾瀬市教科用図書採択検討委員会との協議、更には臨時の協議会での意見交換など、積極的に検討・調査を行っていただき、ありがとうございました。

こうした一連の作業を通じて、お互いの共通理解が進み、教科書に対する意見や考え方が明らかになってきたものと考えております。

本日はこうした検討・調査を踏まえて議論し、令和7年度から本市の中学校で使用する教科書について審議・採択をまいりますので、よろしくお願いいたします。

審議・採決につきましては、議案書の3ページに記載されている種目順に、1種目ずつ行まいります。

採決の方法につきましては、私が発行者名を順に読み上げますので、採択することに賛成の発行者名を読み上げたところで挙手をお願いいたします。

それでは、始めに「国語」について審議を行います。

事務局の説明を求めます。教育指導課長、お願いいたします。

○教育指導課長（春木純子君）

始めに、「国語」について報告いたします。

検討結果報告書の1ページから3ページを御覧ください。

「国語」は、「東京書籍」、「三省堂」、「教育出版」、「光村図書出版」の4者について、協議・検討を行いました。

綾瀬の学校や地域の生徒の特性を考慮すると、「光村図書出版」には「思考の地図」、「三省堂」には「思考の方法」があることで、探究的な学びのプロセスを生み出すことができ、また、教科横断的な学び方を重視しているという点が評価できます。

中でも、「光村図書出版」は、書くことに対する扱い方や、現代的な課題であるSDGsの取り上げ方、また、タブレットパソコンを使った個別最適な学びの工夫という点で、非常に扱いやすいと考えられます。

さらに、文字の見やすさ、読みやすさとともに、読みものが読者の胸に突き刺さるような、感動する内容のものが多く、そして、「学びへの扉」が各単元にあり、「とらえる」、「読み深める」、「考えをもつ」、「振り返る」の項目があることで、生徒が主体的に学習に取り組むことができる点が良いという意見がございました。

採択検討委員会においては、「光村図書出版」が、書くことの扱いやSDGsの取り扱い方、取り上げの工夫、個別最適な学びの工夫、全体的な文章の読みやすさ、見やすさ、内容の教材の豊富さ、「学びへの扉」と教科横断的な学び方が重視されている点から評価が高いという検討結果になりました。以上でございます。

○教育長（袴田毅君）

それでは、「国語」に関しまして、質疑・討論がございましたらお願いいたします。

はい。平出委員。

○委員（平出恵子君）

私は教科書採択に当たり、子どもたちが心豊かに学び、社会や日常生活で生きる力となる教科書を選定したいと考えています。

まず、国語の教科書について、4者の教科書を拝見しましたが、どの教科書もそれぞれに工夫があり、大変充実した内容に感じました。

各者の印象を簡単に述べたいと思います。

まず1者目、「教育出版」については、様々なジャンルの文学作品が豊富で、特に芥川龍之介の「蜘蛛の糸」や夏目漱石の「坊っちゃん」などは、子どもたちにぜひ読んでほしいと思いました。

また、各単元の導入ページにある、「学びナビ」では、何をどう学ぶのかが丁寧を示され、理解が深まる印象を受けました。

次に2者目、「東京書籍」については、情報リテラシーなど情報活用能力を育む教材が幅広くあり、特に池上彰さんのページはニュースの裏側を考える興味深い内容でした。

また、漢詩の日本語訳がどの出版社よりも丁寧な説明であり、情景が浮かんでくるように感じました。

次に3者目、「三省堂」については、文学作品や古典の教材末にある「学びの道しるべ」の解説が丁寧に感じました。

また、「思考の方法」では、イラストや図を用いてわかりやすく説明されていましたが、戦隊ヒーローのような学習のキャラクターが、国語の教科書にふさわしいかどうか少し疑問に感じました。

そして4者目、「光村図書出版」については、1年生の「竹取物語」では、本文の真横に解説文がある点が他者とは異なり、集中して読みやすい印象を受けました。

絵巻による説明も丁寧で理解しやすいと感じました。

全ての古典教材に古典年表があるため、学習した作品の時期が一目でわかるよう工夫されていました。

さらに、各教材末にある「学びへの扉」と「学びのカギ」は、従来の縦書きのページレイアウトから横書きに変更され、学習の流れやポイントがより明確になった印象を受けました。

また、新しい時代の国語力として、情報について全学年を通して学び、様々な情報があふれた

現代では、情報を吟味しながら読み取り、自分の考えを説得力を持って伝える力を身につけるよう取り上げられていました。

最後に、「光村図書出版」は、私自身も中学校の頃に学んだ懐かしい教材が多くあり、特に1年生の「朝のリレー」や、3年生の「わたしを束ねないで」という詩などは、久しぶりに再会したような気持ちで心が動かされました。

時を経て、親子が同じ作品を通して学び、感動を共有できたら素晴らしいと思います。

以上の理由から、私は「光村図書出版」を推薦したいと思います。

○教育長（袴田毅君）

他に御意見はよろしいでしょうか。

はい、田中職務代理者。

○教育長職務代理者（田中恵吾君）

結論から申し上げますと、私も国語については、「光村図書出版」の教科書を推薦したいと思います。

国語は全ての教科に通じる根幹で、他の教科の基礎を支える重要な柱だと捉えています。

国語で身につけた知識や技能、思考力や判断力、そして表現力は、他の教科の学習においても不可欠です。

例えば数学の問題を解くための読解力、社会科の資料を読み込む分析力、理科の実験結果をまとめる表現力など、全ての教科で必要とされる力は、この国語によって培われると感じております。

このように、国語は全ての教科の土台となるため、最も大切にしたい教科の一つです。

また、市が現在推奨しています読書活動、この充実につながるような教科書選びをしたい。

このような視点から、検討を自分なりにしてきました。

さらには、これは国語に限らないわけですが、デジタルコンテンツ、QRコンテンツの有用性も選択する場合の視点に置いてきました。

先ほど平出委員さんからも他者のお話がありましたが、私も「三省堂」については、非常に高い評価を持っておりました。

特に、「思考の方法」などがあって、探究的な学びのプロセスを生み出すことができ、教科横断的な問題を重視している点など、とても捨てがたいと感じました。

ただ最初に述べたように、最終的には「光村図書出版」を推薦いたします。

その理由としては、一つに、「光村図書出版」の教科書は、学習内容がとても焦点化されていて、生徒の、先ほど言いましたような能力・資質がしっかり身につくように設定されている

と私は感じました。

具体的には、「学びへの扉」と「学びのカギ」といった新しい取組が取り入れられています。

「学びへの扉」は、学習の流れや身につけるべき資質を示して、黄色という色を使って、学習過程を強調しているところがとても印象に残ります。

もう一方の、「学びのカギ」は、教材で身につけるべき資質、あるいは能力を図解で視覚的にわかりやすく示していると思います。

これによって、生徒たちは、自分の学びを振り返り、何ができるようになったかを自分の言葉で言語化することが可能になると思っています。

さらにもう一つ、古典の学習についてです。「光村図書出版」は、非常にわかりやすく構成されていると感じました。

その部分は何かというと、現代語訳が、他者は軒並みほとんどが下段に記されていましたが、「光村図書出版」は横に現代文が記載されておりまして、それを見比べながらできるということで、このような工夫で古典に対する苦手意識を軽減する一助になっていて、理解を深めることができるのではないかと思います。

さらには最後、1年生の「二十歳になった日」、2年生の「六千回のトライの先に」、3年生の「律儀な桜」など、新しい教材が取り入れられています。

このことによって、生徒の興味を引き、より魅力的な授業になると感じています。

以上のことから、私は最初に述べましたように「光村図書出版」の「国語」を推薦したいと思います。以上です。

○教育長（袴田毅君）

他に御意見はいかがでしょうか。

亀ヶ谷委員。

○委員（亀ヶ谷由美子君）

国語はどの教科にもつながる大切な科目だと思います。

今回は、どこの教科書も言葉の力を大切に考え、語彙力をつけるための様々な工夫が感じられました。

特に良かったものは3者あり、「三省堂」は確かな言葉の力をつけるため、単元ごとに「学びの道しるべ」で内容を捉え、自分の考えを深めていけるよう、思考の整理がきちんとできるつくりになっていました。

読むことのおもしろさとして、又吉直樹さんの体験談が掲載されています。

中学生のときに、芥川龍之介の「トロッコ」を読んだことにより、読書に夢中になったそうで

す。

この「トロッコ」は、1年生の教科書に掲載され、躍動感と緊張感が入り混じった主人公の気持ちにとっても共感できる作品でした。

この描写は、太宰治の「走れメロス」を読んだ時の気持ちにとっても似ているように思い、こういったことが読書の面白さであると感じました。

また、「俳句の世界」は夏井いつきさんが執筆をされていて、「夏井いつきの赤ペン俳句教室」とあわせ、とても楽しく、わかりやすく、俳句が学べるつくりになっていると思います。

「おくのほそ道」は、どの教科書にも掲載されていましたが、「三省堂」は見開きページを使った奥の細道行程図のイラストがとてもかわいく、松尾芭蕉一行の行脚の様子が目に浮かびました。

また、単元ごとの「学びの道しるべ」の中には、「語彙を豊かに」というコーナーで、様々な語彙を見つけられるよう配慮され、全体を通してとても学習しやすい教科書だと思いました。

次に、「光村図書出版」ですが、「学びへの扉」では、右ページに学習の流れを、左ページに資質・能力についての「学びのカギ」を設定し、学んだことを焦点化することで、習得した力を活用し、課題解決ができる仕組みになっています

新川和江さんの「わたしを束ねないで」という詩は、胸を打たれる作品でした。

作者の心情に寄り添いながら、詩の持つメッセージを捉えた子どもたちの感想を聞きたいと思いました。

また、各学年の巻末には、「語彙ブック」が掲載されていましたが、日常でも使う言葉や表現なども多く掲載されていたことが少し気になりました。

谷川俊太郎さんのコラムには、「言葉は知識だけでなく経験を通して深まってゆく。」とありましたが、私も全く同じ気持ちです。

語彙力は教科書からの知識だけに頼らず、家族や友人、周りの人たちとの会話から身につけることも大切だと思っています。

そして最後に、「教育出版」ですが、「学びナビ」では、その教材で何をどのように学ぶかを、本文の前に解説し、読み方を学んでから本文に入ること、何ができるようになれば良いのか、という見通しを持って学ぶことができ、今回の教科書会社の中で、一番シンプルに学べるつくりになっていると感じました。

末吉里花さんの、『『エシカル』に生きよう』では、2018年、鎌倉の由比ヶ浜にシロナガスクジラの赤ちゃんが亡くなった状態で漂着し、胃の中からはプラスチックのごみがたくさん出てきたそうです。

神奈川県は、この出来事をクジラからのメッセージとして受け止め、プラスチック製ストローやレジ袋の利用廃止、回収などの取組を広げていくことを宣言しました。

このような問題を解決するためには、見えないものを見ようとする力を育むことが大切であり、身近な問題に疑問を持つところから始め、想像力を働かせてみる。たった一つしかない地球で人間や、ほかの生き物が暮らし続けられる環境を守るためにも、見えないものや、他者へ思いを馳せ、一人一人が自らの影響を考えながら、分かち合う心を持つことが求められていると書かれていました。

その中で、最後のページでは、「なぜ、人間だけがごみを出すのでしょうか。」と作者が読者に訴えかけてきます。

ウミガメが漂流する網に絡まってしまっているカラー写真が掲載されていて、胸が詰まる思いでした。

綾瀬から近い鎌倉の海岸での出来事なので、子どもたちにも身近に感じてもらえると思います。

この『『エシカル』に生きよう』にはとても大切なことがたくさん書かれているので、読んでもらいたい。そして、考えてほしいと思いました。

また、「言葉がつなぐ世界遺産」では、日光東照宮、二荒山神社、輪王寺の絢爛豪華な装飾の建造物を守るために、職人たちは絵や文字で記録を残すとともに、直接言葉で技術や技法を伝えてきたそうです。

修復記録の蓄積と世代を超えた技術の伝承について、言葉がとても重要な役割を果たしているとのことでした。

修学旅行で訪れた日光の世界遺産についての題材なので、子どもたちも理解しやすいのではないかと思います。

「花の詩画集」は、最近亡くなられた星野富弘さんの柔らかく優しい詩が掲載されています。

詩の中にある、あしたも頑張ろうと思える言葉の数々と優しく温かい絵でいっぱいの作品が、私は以前から大好きで、思春期の子どもたちにも読んでほしいと思いました。

また、多田孝志さんの『『対話力』とは何か』では、外国につながる人たちが周りに増えることにより、自分と同じ文化で育った人たちだけでなく、自分とは異なる文化を持つ人たちとも対話ができる力を高めることが必要であり、多文化共生社会に必要とされる対話力を磨くためには、自分の意見や考えをしっかりと持つことが大切だという作者の考えに、私も全く同じ思いでした。

いくつもの国際学級がある綾瀬の子どもたちにとっても、同じ環境だと思うので、対話力について話し合う授業をしてもらいたいと思いました。

また、巻末には前回と同じく、『『ふるさと』を巡る』として日本文学を代表する作者や作品に

深く関わっている場所や風景の写真とともに、解説が掲載されています。

好きな文学作品に関する場所を実際に訪れ、文章からとは違った視点で作者の気持ちを読み取れるのではないかと思います。

以上のことから、私は教科書全体を通しての色遣いも落ちついていて、レイアウトも大変わかりやすく、綾瀬の地域性に一番適していると感じた「教育出版」を推薦したいと思います。

○教育長（袴田毅君）

他に御意見はよろしいでしょうか。

それでは、私からも今回の採択に当たって、全ての教科書に共通する視点、あるいは考え方を、ここで述べさせていただきます。

採択に当たっては、県教委からの調査研究の結果、四市合同調査員会からの報告書、本市の教科外調査員会からの報告書、市内中学校教員からの意見、教科書展示会閲覧者からのアンケート、そして採択検討委員会からの報告など、多くの参考とするべき資料があります。

その中から私は採択するに当たって、まずは本市独自に調査を実施している教科外調査員からの報告書を参考にして、二つの視点を決めました。

一つ目は、本市の特性である外国につながるの児童・生徒が多いことや、就学支援の対象家庭が多いことなどから、基礎的な学力の定着を図ることが必要であると考え、1時間ごと、あるいは、単元ごとに振り返りを充実させる教科書となっているかどうかという点です。

これは、本市が現在推進している綾瀬市型小中一貫教育からも重要な視点であります。

二つ目は、本市の教育研究所が実施している教育基本調査から見えてくる保護者や生徒の実態から、一人1台配付されているタブレット端末等を活用しながら、自ら家庭学習に取り組める教科書となっているかという点です。

帰宅後にパソコンやスマホでのゲーム、SNS、ユーチューブ等の動画視聴の時間がとても長いことが本市の生徒の課題となっている中で、教育委員会としては家庭学習の時間を増やすことを目指している点からも重要な視点です。

そして、二つの視点以外にも小学校と中学校の学習内容の接続が意識されている教科書か、あるいは、日本語が苦手な外国につながるの生徒でも理解しやすい教科書か、また、現在使用している教科書に対し、教員が実際にどんな意見を持っているかなども採択する上での参考としました。以上です。

それでは、ほかに御意見はよろしいでしょうか。

（ 質疑等の有無確認 ）

○教育長（袴田毅君）

質疑・討論なしと認めます。

これより、「国語」について採決いたします。

それでは、発行者名を順に読み上げます。

「東京書籍」0名です。

「三省堂」0名です。

「教育出版」1名です。

「光村図書出版」3名です。

「光村図書出版」挙手多数であります。

よって、「国語」については、「光村図書出版」を採択することに決しました。

続きまして、「書写」について審議を行います。

事務局の説明を求めます。教育指導課長、お願いいたします。

○教育指導課長（春木純子君）

「書写」について報告いたします。

検討結果報告書の4ページ・5ページを御覧ください。

「書写」は、「東京書籍」、「三省堂」、「教育出版」、「光村図書出版」の4者について協議・検討を行いました。

「教育出版」は、電子メールの書き方や、入学願書の書き方を学習した後、面接シートの書き方が紹介され、就職などその後の生活にも生かすことができるような構成になっている点が良いという意見がございました。

「光村図書出版」は、考えよう、確かめよう、生かそうという学習の流れが見開きで表されていて、学びやすく教えやすい点、また、SDGsなどのコーナーが設けられていて、現代的な課題にアプローチしやすい点が良いという意見がございました。

採択検討委員会においては、「教育出版」と「光村図書出版」が、生活との関連が図られているという視点で、両者ともに優れていると評価しました。

「教育出版」は生活との関連がより深く学習できる点がよく、また「光村図書出版」は、「考えよう」、「確かめよう」、「生かそう」というところが見開きで示され、子どもにとって学びやすく、教員にとって教えやすい構成になっているという点、SDGsという視点から、現代的な課題に書写の分野でもアプローチしている点で優れているという検討結果になりました。以上でございます。

○教育長（袴田毅君）

それでは、「書写」に関しまして、質疑・討論がございましたらお願いいたします。

はい、平出委員。

○委員（平出恵子君）

「文字は人を表す」という言葉があるように、文字の特徴や筆圧からその人の個性や気持ちを感じることができると思います。

心を込めて書いた文字には、真心や温かさが伝わり、コミュニケーションを豊かにすると思います。

生徒たちには字形を整えるだけでなく、自分の気持ちを込めて文字を書くことの大切さに気づいてほしいと思います。

そのような思いで、各出版社4者の教科書を拝見しましたが、どの教科書も大変充実しており、硬筆・毛筆ともにしっかり取り組める内容に感じました。

それぞれの特徴を述べさせていただきます。

まず1者目、「三省堂」の教科書では、硬筆の文字練習において、文字のマス目に書かれた点線が徐々に難易度を上げていく工夫がされていました。

また、篆刻に関する教材が取り上げられていました。

美術と併用して学習することで、より深い学びにつながると感じました。

2者目、「教育出版」の教科書では、かな学習の初めの題材が硬筆で「おはようございます」、「おめでとうございます」で始まり、次に小筆で「ありがとうございました」、「よろしく願います」と書いてみようとなりました。

このような挨拶は、気持ちを込めて文字を書く練習にふさわしいと感じました。

3者目、「東京書籍」では、毛筆の基本的な説明において、かわいらしい穂先のキャラクターが穂先の動きや筆圧に合わせて、「とん」、「すう」、「びたっ」と動くイメージでわかりやすく解説されていました。

また、時候の挨拶に関する例文がほかの教科書よりも豊富にあるため、参考になるように思いました。

最後に4者目、「光村図書出版」の教科書には、別冊で硬筆の「書写ブック」があり、字形を整えて、丁寧に文字を書く練習がしっかりとできるように感じました。

毛筆に関しては、半紙と同じサイズのお手本ページが豊富にあり、その隣には朱墨で書き順も示されているため、とてもわかりやすいと感じました。

また、行書の学習では、まず楷書と行書の違いを理解し、筆の流れを大切にして書くよう内容に工夫がありました。

さらに、「自分らしい文字」という教材には、長谷川町子さんや、谷川俊太郎さんら著名人に

よる手書きの文字がありました。

個性あふれるその文字には、その人の生き方や考え方が表れているように感じました。

生徒たちは将来どんな文字を書くのだろう、未来が楽しみになりました。

以上の理由から、私は「光村図書出版」を推薦したいと思います。

○教育長（袴田毅君）

他に御意見はよろしいでしょうか。

はい。田中職務代理者。

○教育長職務代理者（田中恵吾君）

私も、「書写」については平出委員さんと同じ、「光村図書出版」を推薦したいと思います。

その理由ですが、「光村図書出版」の教材は、平出委員さんも述べていましたが、毛筆と硬筆の両方がとてもわかりやすく構成されていると思いました。

さらには、学習の流れも非常に明確で、生徒たちにとって学びやすいと感じました。

具体的には、「考えよう」、「確かめよう」、「生かそう」という学習の流れがしっかりと組み込まれています。

一例ですが、2年生の行書とかなの学習では、「調和を意識して書こう」という具体的な目標が最初に提示されています。

さらに学習の進捗状況を確認するための、「振り返り」のチェック欄も用意されています。

とても自己評価がしやすいと感じました。

また、書き順なども、他者もそうでありますが、朱墨で視覚的に示されていて、どのように書けば良いのか一目で理解できました。

このことは初めて「書写」を学ぶ生徒にとっては非常に有益だと思います。

さらに、デジタルコンテンツがとても充実していると思いました。動画や写真などが463点収録されているそうです。

このことによって紙の教材だけではなく、視覚や音声を通じて学習を深めることができます。

特に、動画で実際の筆使いや書き方のデモンストレーションを見ることができますので、書く際に大いに参考になると思っています。

総合的に見て、「光村図書出版」は、生徒たちに「書いてみよう」、「もっと挑戦してみたい」というような思いを持たせる素晴らしいアプローチをしていると感じました。

このことは、生徒だけではなく、指導する先生方にとっても、これだけのサポートがあることで、より効果的に、書写の授業を進めることができると思っています。

以上のことから、私は「光村図書出版 中学書写 一・二・三年」を推薦いたします。以上で

す。

○教育長（袴田毅君）

他に御意見はよろしいでしょうか。

（ 質疑等の有無確認 ）

○教育長（袴田毅君）

質疑・討論なしと認めます。

これより、「書写」について採決いたします。

それでは、発行者名を順に読み上げます。

「東京書籍」0名です。

「三省堂」0名です。

「教育出版」0名です。

「光村図書出版」4名です。挙手全員であります。

よって、「書写」については、「光村図書出版」を採択することに決しました。

続きまして「社会（地理的分野）」について審議を行います。

事務局の説明を求めます。教育指導課長、お願いいたします。

○教育指導課長（春木純子君）

「社会（地理的分野）」について報告いたします。

検討結果報告書の6ページ・7ページを御覧ください。

「社会（地理的分野）」は「東京書籍」、「教育出版」、「帝国書院」、「日本文教出版」の4者について、協議・検討を行いました。

4者ともに、中学校学習指導要領に示された地理的分野の目標を踏まえた工夫や配慮が感じられました。

その中でも「帝国書院」は、「未来に向けて」というコーナーを各所に設け、自然災害を取り上げたハザードマップについての言及、東日本大震災を取り上げた災害からの復興や、SDGsについてなど、未来に対する在り方、課題の取り上げ方が豊富で、子どもたちにとって考えやすいという意見、また、小学校との関連や歴史・公民の分野との関連が非常にわかりやすく示されていて良いという意見がございました。

採択検討委員会においては、「帝国書院」が未来へ向けての課題やSDGs、自然災害の記述などが豊富である点、また、小学校との関連や歴史・公民の分野とのつながりも示されている点で評価が高いという検討結果になっております。以上でございます。

○教育長（袴田毅君）

それでは、「社会（地理的分野）」に関しまして、質疑・討論がございましたらお願いいたします。

はい。田中職務代理者。

○教育長職務代理者（田中恵吾君）

「社会（地理的分野）」については、総合的に捉えて、結論から申し上げますと、私は「帝国書院」を推薦したいと思います。

「東京書籍」の教科書については、小学校の振り返りやつながりを大切にされていると感じました。

例えば、「みんなでチャレンジ」コーナー、「クイズカード」づくりなどは、面白い取組の一つだと捉えましたが、最終的に私は、最初に述べたように「帝国書院」を推薦したいと思っていますが、その理由としては、2点ほど挙げておきたいと思います。

1点目は、文言や文章表現の仕方がとても明瞭でわかりやすいこと。

2点目は、各地域の様子が非常にわかりやすく提示されていること。

それぞれを具体的に申し上げますと、例えば、1点目の文言や表現の仕方についてですが、一例になりますが、地球儀と世界地図の違いを説明する際に、「帝国書院」では「地球儀を切り開いて、世界地図をつくろうとすると、みかんの皮をむいたときのように、地図がちぎれてしまいます。」とありました。

非常にこの例えはわかりやすく表現されていると思います。

このような例えを使った方法が要所要所に見られて、とてもわかりやすくイメージできると感じました。

もう一つの、2点目の各地の様子がわかりやすいことについては、とても素晴らしい、素敵な、綺麗な写真やイラストをベースにしていると思います。

地球の様子が鮮明に把握でき、特に外国の様子や、地域の特徴を知ることには欠かせないと思います。

これも一例を挙げますと、例えば、スイスの「アルプス山脈を走る登山列車」。まさに、この写真を見ると、その現場にいるような思いにさせてくれました。

もう一つは日本。姫路城の写真が使用されています。日本の様子や文化、そうしたことについて理解することができるとともに、恐らく、私が感じたように「行ってみたい」、「調べてみたい」と、生徒たちに思わせるのではないかと思います。

最後に、付け足しになってしまいますが、QRコンテンツが「帝国書院」では1, 700近く収録されているという点であります。

個別最適な学びにとっても有効であると、優れていると感じました。

以上のことから、私は「帝国書院」の「社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土」を推薦いたします。以上です。

○教育長（袴田毅君）

他に御意見はよろしいですか。

はい。亀ヶ谷委員。

○委員（亀ヶ谷由美子君）

特に良かったものは2者ありました。

「教育出版」は、見開きページごとに学習課題が設置され、「確認！」、「表現！」で振り返ります。

そのほか、「地理の窓」では、興味や関心を広げていくコラムが数多く掲載されていました。

北方領土をめぐる問題については、主な出来事を年表で示し、竹島、尖閣諸島とともに日本固有の領土としっかり書かれ、これまでの動きや現状についても、豊富な写真資料とともに記述されていて、さらに、位置関係が捉えやすいように日本海を中心に描いた地図が掲載されていました。

ロシア、中国、韓国と太平洋、そこをちょうどふさぐ形で日本列島が存在している地図では、また違った視点で、長期化している領土問題を考えられると思います。

また、とても興味深かったものが、「どこの国の領土でもない大陸を調べ、その理由を考えよう。」との問いかけでした。

そのような大陸はあるのかと、実際に調べてみましたが、それは南極大陸で、理由もしっかりとありました。

また、「東京書籍」でも、「もっと知りたい！」というコラムで、「南極大陸はどこの国？」という形で掲載されていました。

どちらも、領土問題を考える中で、この問いかけはとても効果的なものだと思います。

アジアについては、日本で暮らす外国人が増え、多文化共生のために、多様な対応が求められているとして、いくつかの自治体の取組が紹介されていました。

一番問題に上がるのは、言葉についてだと思いますが、そのことについても柔軟に対応されている様子が紹介されています。綾瀬とつながるものがあると感じました。

また、世界と日本の学習をつなぐ折り込み資料として、7ページにわたる、大きく広げることができる資料は、世界と日本の学習に役立てることができる上、宇宙から捉えた日本列島の写真と伊能忠敬による日本地図が並んで掲載されていて、ほぼ変わらないことがわかり、当時の技術

に驚かされました。

また、「アイヌ民族の文化に学ぶ」では、持続可能な社会づくりの視点から、自然環境と共生した生活を営んできたアイヌ民族の文化に着目し、多様な文化を持つ人々がともに持続可能な社会をつくっていくために何が必要か問いかけていました。

次に、「帝国書院」です。

節の冒頭には、見開きページを使った「写真で眺める」が設置され、大きく鮮やかな写真から、地域に対する興味や関心を高め、日本については、地方ごとに、さらに1ページ全てを使い、特徴的な産業や文化などが書かれたイラスト地図が掲載されています。

単元の初めには、章・節の問いで見通しを持ち、各見開きには章・節の問いに対応した学習課題が、また、学習課題に対応した「確認しよう」、「説明しよう」が設置されていることで、学習の流れがつかみやすく、さらに、節末には学習を振り返るページが設定されていました。

特徴的なのは、地図を活用した学びが数多く載っていることで、地理の学習をより深めていけると思います。

そして、「教育出版」と同じく、こちらにも、日本の位置関係を捉える表し方で、ユーラシア大陸の隣国から見た日本として、日本海を中心に描いた地図が掲載されていました。

どの国から日本を見るかによって表し方が変わるので、違った視点で見ることも大切だと思います。

領土問題については、国際法の解説とともに、北方領土、竹島、尖閣諸島は「日本固有の領土である」と明記されています。

また、排他的経済水域を守るという意味からも、沖ノ鳥島の大規模な護岸工事の様子が写真とともに示されていました。

「ヨーロッパとの結びつきからみたロシア」では、ウクライナ侵攻について、短文で書かれ、これはほかの教科書も同じでしたが、ロシア、ウクライナ、NATOを含む地理的な問題も絡んでいるので、やはりもう少し深く触れてほしいと思いました。

ウクライナはいまだに戦場だということ、たくさん子どもたちが犠牲になっているということなど、資料写真などと共に、しっかり伝える文章があったらと思います。

また、自然災害に関しては、いつどこで何が起こっても不思議ではないくらい、日本の至るところで地震や津波、地球温暖化による異常気象や火山噴火など、様々な災害が頻繁に起こっていて、教科書における災害に関してのページがとても増えたと思います。

度重なる災害における防災や減災などの対策が、どの教科書にも、資料写真やデータなどを使い、掲載されていました。

以上、どちらの教科書も、単元ごとの見通しがとてもわかりやすく、学習しやすいつくりになっていましたが、私は、さらに地図や資料が素晴らしいと感じた「帝国書院」を推薦したいと思います。

○教育長（袴田毅君）

他に御意見等はよろしいですか。

はい。齊藤委員。

○委員（齊藤隆訓君）

はい、私もほかの委員の方と一緒に「帝国書院」を推薦させていただきたいと思います。

理由としては、教科書の中で子どもたちが、写真とグラフが大変わかりやすかったということ、あと、やはり学習の振り返りということが、物凄く重要だと思っておりまして、そちらのほうが多く載っていたのでよかったなと思っております。

さらにこれからグローバル化とかそういうことを考えたときに、「アクティブ地理」というところで課題を挙げているんですね。

それがアジアでは、経済成長のメリット・デメリットを取り上げ、ヨーロッパでは、EUという括りの中でのメリット・デメリットというのを、子どもたちが調べながら発信をするということで、このように世界情勢に応じたところに興味を持てるようになっているというのが素晴らしいと思って、「帝国書院」とさせていただきます。

ただ他の教科書も素晴らしいのですが、「日本文教出版」さんの教科書でちょっと僕としてはよかったなと思うところがありますので、お伝えさせていただきます。

この地理の中で、自分の考えのまとめが、フィッシュボーンチャートを使って整理をしやすいようにしてあったんですね。社会に出たときにこのフィッシュボーンという考え方が物凄く効いてきますのでこれはものすごく良いと。

さらに、この小グループでの話し合いができるようになっている。子どもたちがこの地域の中、この地理、世界、グローバルという中での話し合いが、子どもたち同士でできる。

さらに、地域調査の方法というのが丁寧に説明されていまして、京都の伏見の問題を取り上げていました。これは綾瀬の中学生が修学旅行で行く機会があるので、興味が持ちやすくて良いのではないのかなと思いました。以上となります。

○教育長（袴田毅君）

他に御意見はよろしいですか。

（ 質疑等の有無確認 ）

○教育長（袴田毅君）

質疑・討論なしと認めます。

これより、「社会（地理的分野）」について採決いたします。

それでは、発行者名を順に読み上げます。

「東京書籍」0名です。

「教育出版」0名です。

「帝国書院」4名です。挙手全員であります。

よって、「社会（地理的分野）」については、「帝国書院」を採択することに決しました。

○教育長（袴田毅君）

続きまして「社会（歴史的分野）」について審議を行います。

事務局の説明を求めます。教育指導課長、お願いいたします。

○教育指導課長（春木純子君）

「社会（歴史的分野）」について報告いたします。

検討結果報告書の8ページから10ページを御覧ください。

「社会（歴史的分野）」は、「東京書籍」、「教育出版」、「帝国書院」、「山川出版社」、「日本文教出版」、「自由社」、「育鵬社」、「まなび舎」、「令和書籍」の9者のうち、1者については見本本の送付がなかったため、8者について協議・検討を行いました。

8者ともに、学習指導要領に示された歴史的分野の目標を踏まえた工夫や配慮が感じられました。

その中でも、「帝国書院」は、見開きで学習課題が示され、最後は「確認しよう」で何を学んだのかを確認する。その後さらに、「説明しよう」で理解を深めるという工夫が良いという意見がございました。

また、差別について、歴史的経緯や差別された人々の活躍などが書かれており、差別についての表面的な理解だけでなく、差別された人たちがなぜ生まれたのか、社会の中でどのような役割を担っていたのかまで記述されているので良いという意見もございました。

「日本文教出版」は、学習課題が示され、最後に「確認」、「表現」が設定されていて、何を学んだのか、何がわかったのか、それが確認できる工夫があり良いという意見や、見方・考え方が必ず学習課題とセットになって記されている点、見通しをしっかりと持って学習することができる点、最後に振り返ることができるよう構成されている点が良いという意見がございました。

採択検討委員会においては、「帝国書院」と「日本文教出版」の両者がめあてや振り返りなどで、生徒が何がわかったかを確かめることができる構成になっていることが評価できるとし、「

帝国書院」は、差別された人々の役割や視点についての記載があるという点や、小学校、地理的分野、公民的分野などの他校種や他分野とのつながりが記載されているという点で評価でき、「日本文教出版」は、見方・考え方が、学習課題とセットで示されているという点や、学習内容を見通すことができ、振り返りもできるような工夫があるという点で評価できるという検討結果になりました。以上でございます。

○教育長（袴田毅君）

それでは、「社会（歴史的分野）」に関しまして、質疑・討論がございましたらお願いいたします。

はい。田中職務代理者。

○教育長職務代理者（田中恵吾君）

結論から申し上げますと「社会（歴史的分野）」については、私は、「帝国書院」を推薦したいと考えます。

その理由を述べる前に、「教育出版」と「自由社」について少し触れておきたいと思います。

「教育出版」は、ページ構成が「導入」、「本文／特設」、「振り返り」という形で構成されていて、大変わかりやすいと感じました。

さらに、「歴史の技」というコーナーが8か所ありまして、関連する資料について、デジタルコンテンツで調べられるようになっています。

難しい用語についても、補足説明が丁寧だと受け止めています。

「自由社」は、外の目から見た日本や時代の特徴を考えるページがあり、世界の歴史を背景に、多面的・多角的に捉えられているように感じました。

では、なぜ私が「帝国書院」を推すのかというと、3点ほどその理由を述べたいと思います。

一つ目の理由は、「タイムトラベル」というコーナーがあります。

各時代の初めに、見開きのイラストがあり、時代ごとの生活の様子が細かく描かれています。

日本の歴史だけでなく、唐の都や、産業革命の時代も描かれています。

生徒たちは、こうしたイラストを具体的に調べていくことによって、興味を持って学べると私は確信いたします。

次に、重要な用語の確認や振り返りがしっかりと押さえられていると思います。

章の問いの考察や時代の特質の考察などがあり、本当に振り返りが丁寧に扱われていると思います。

小学校とのつながり、あるいは地理などとのつながりも本当に大切にされていると思います。

そして最後に、私が強調したいのは、時代の中で虐げられた人々にもしっかりと光を当てて

いることです。

なぜそのような人たちが生まれたのか、社会の中で、どのような役割を担っていたのかなども具体的に書かれています。

歴史を単なる理解に終わらせず、さらにはこうした学習をすることで、求められる社会的な見方・考え方をより深めるものだと思います。

以上の理由から、私は「帝国書院」の「社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き」を推薦いたします。以上です。

○教育長（袴田毅君）

他に御意見はよろしいですか。

はい。亀ヶ谷委員。

○委員（亀ヶ谷由美子君）

「歴史」は8者ありましたので、時間を十分かけて読み込みました。

どの教科書会社にも共通しているのは、資料がとても素晴らしく、豊富に取りそろえていることでした。

記述に沿った資料を読むこと、見ることで、歴史についての理解が深まり、見方や考え方をサポートしてもらえenと思います。

「山川出版社」は資料写真が大きく、とても見やすかったです。

また、「地域からのアプローチ」と題して、「奈良の大仏と大仏殿はどのような過程を経て現在の姿になったか」という問いや、「地面の下にひそむ世界から考えよう」と、ちょっとわくわくするようなテーマで、発掘調査による遺構の分析や、「掘り起こした木簡からわかることを考えよう」といった問いがあり、楽しそうな視点から入る工夫がとてもよかったと思います。

「東京書籍」は、導入ページでの年代が、年表とともに面白いイラストで示されていました。

また、鎌倉における2か所の幕府跡や、「鶴岡八幡宮」をはじめ、大仏や鎌倉五山、七つの切通しの名称も全て書かれていることに丁寧さを感じたり、西南戦争での「田原坂の戦い」の様子が描かれていた貴重な資料が、とてもよかったと思います。

「教育出版」は、タイトルの上にさらに大きな字で学習内容を象徴するようなサブタイトルが書かれているので、想像力が広がり、関心も高まると思います。

また、神話については、「すべてが歴史的な事実とはいえない」とした上で、「そのなかには、古代の人々の信仰や、ものの見方を知るための貴重な手がかりも数多く含まれている」と書かれていた「教育出版」が一番良かったと思います。

次に、「帝国書院」ですが、節の冒頭にある「写真でながめよう」は、各時代の人々の生活風

景の絵が見開きページで掲載され、その絵を通して、様々な時代の変化や移り変わりを確認することができ、学習意欲にもつながる素晴らしい作りになっていました。

また、細かいところになってしまいますが、例えば、「菅原道真が死後、学問の神様になったのはなぜなのか」ということに対して、ほとんどの教科書では、「崇りを恐れたため」とだけ書かれていましたが、「帝国書院」には天変地異が続きこれを崇りとして恐れた、としっかり理由まで書かれていたことが、大変よかったと思います。

また、どの教科書会社も全体的に、竹島、尖閣諸島、北方領土を巡る問題については、ページ数を使い、国際法を踏まえた上での過去の歴史から今に至るまでの経緯が書かれていましたし、アイヌや沖縄についても、文化や暮らしを含めた、これまでの深い歴史について丁寧に書かれていて、どこも以前よりページ数が増えていると感じました。

また、子どもたちにしっかり学んでほしいと思うことは、やはり、数々の戦争についてです。

なぜ起きてしまったのか、起こしてしまったのかをしっかりと捉え、その結果から、どのように世の中が動いたのか。今も世界のあちこちで戦争や紛争は起きていて、何の罪もない、未来ある子どもたちが一番の弱者として、命を落としたり、人生を変えてしまわれたりしています。

歴史は繰り返されると言われている中で、戦争は二度と繰り返されてはならないということをしっかり感じ取ってほしいと思います。

その中で、一番難しいことは、勝者側からの視点と敗者側からの視点は違うということで、どちらか一方の視点によらず、両者をしっかり見極める力が必要だと思います。

「日本文教出版」は、日露戦争における「主戦論」と「非戦論」、「反戦論」を並べて掲載していましたし、日本の満州支配に反対したジャーナリストの手記を載せていたり、様々な視点から考えることができ、偏りのない思考で学習できると思います。

また、資料の見せ方も素晴らしく、例えば、東大寺南大門の金剛力士像が8.4メートルあるのですが、その大きさを示すために、2.8メートルの平等院鳳凰堂の阿弥陀如来像と、1.5メートルの人の3体を比較する形で載せています。

これは「日本文教出版」だけでした。その場にいなくても、一目でその大きさがわかる見せ方に感心しました。

どの教科書もそれぞれの良さが感じられ、たくさんの情報から学べる素晴らしい教科書でしたが、私は「日本文教出版」を推薦したいと思います。

○教育長（袴田毅君）

他に御意見等はよろしいですか。

はい。齊藤委員。

○委員（齊藤隆訓君）

私も歴史に関しては「日本文教出版」を推薦したいと思っております。

歴史は、自分の中では、やはり大きな流れ、まずそれを理解すること。

その中では、「日本文教出版」さんは時代の前後の結びつきが大変わかりやすいと思いました。

これがなぜわかりやすいかというと文章と絵や写真の連動性が高く、物の見方・考え方が課題とワンセットになっており、子どもたちが理解しながら進められるのがすごく良いと思い、「日本文教出版」さんを推薦させていただきます。

そのほかの教科書会社さんの中で、ちょっと2者だけよかったところを説明させていただきます。

「育鵬社」さんはですね、戦後復興以降が丁寧に書かれてあり大変わかりやすかったです。

こちらで、まだ現代の情報もベルリンの壁の崩壊や戦後文化、さらにマスメディアの変遷が書かれているのが大変よかったなと思います。

あと「令和書籍」さんは、先に走り読みをしたのですが、まずこれは高校レベルの教科書ではないかと錯覚に陥るような文章の多さと内容で、大変読み応えがありました。

これは持ち歩きもしやすいので、本当に歴史に興味を持っている子たちにとって、すぐ見られる環境をつくれるのは、すごく良いのではないかと思います。以上となります。

○教育長（袴田毅君）

はい、ほかに御意見はよろしいでしょうか。

はい、平出委員。

○委員（平出恵子君）

私は、歴史の教科書は、時代背景や人物の生きた時代をわかりやすく説明し、資料が豊富で、理解しやすいものが良いと思います。

どの教科書も大変すばらしかったのですが、現在、市内で使用している「教育出版」と、特に印象的だった「日本文教出版」の教科書について述べたいと思います。

まず、「教育出版」は資料が多く、写真が鮮明で見やすい印象でした。

章の導入、「学習のはじめに」は、資料が充実しており、それを通して問いを確認することで、見通しを持って学べるように感じました。

また、章の振り返り、「学習のまとめと表現」では、見開きページに年表や地図があり、穴あき問題を通じて内容がしっかりと整理できるようになっていました。

特に年表は他者と比較しても大きく、扱いやすい印象でした。

さらに、学習した内容を説明し、意見を出し合うことで、より充実した振り返りができるよう

に感じました。

次に、「日本文教出版」についてです。

「日本文教出版」はまず、文章が非常に読みやすく、理解しやすい印象でした。

資料も大きく充実しており、見開きページ右側に常に学習している時代を示す年表スケールがあり、左下には、時代の流れや時代背景を意識できる年表がありました。

また、各編の導入ページには、見開きページで、前後の時代を比較し、学びを深めるための大きな資料が掲載されていました。

例えば、第3編では「平安時代の貴族の屋敷と鎌倉時代の武士の館の比較」、第4編では「室町幕府と江戸幕府の将軍が政治を行った建物の比較」、第5編では「江戸時代の江戸のようすと明治時代の東京のようすの比較」についてなど、これらの違いを読み取ることで、歴史的な見方・考え方ができ、時代のイメージをつかみながら学習を進めることができるように感じました。

さらに、教科書のほぼ全ての見開きページに2次元コードがあり、関連動画やワークシート、確認テストなどがありました。

特に、関連動画は、「NHK for school」や、「国際子ども図書館」などのページとリンクしており、どのサイトを見ても、内容が充実している印象でした。

特に、第二次世界大戦の終結に関するページでは、原子爆弾や玉音放送の動画などがあり、写真だけでは伝わらない悲惨な状況がわかり、より深く理解できるように感じました。

この様な教材を通して、生徒たちが、日本が歩んできた歴史をしっかりと理解し、自分の意見を持ち、将来につなげてくれたらと思います。

以上の理由から、私は「日本文教出版」の教科書を推薦したいと思います。以上です。

○教育長（袴田毅君）

はい、ほかに御意見はよろしいでしょうか。

（ 質疑等の有無確認 ）

○教育長（袴田毅君）

質疑・討論なしと認めます。

これより、「社会（歴史的分野）」について採決いたします。

それでは、発行者名を順に読み上げます。

「東京書籍」0名です。

「教育出版」0名です。

「帝国書院」1名です。

「山川出版社」0名です。

「日本文教出版」3名です。

「日本文教出版」挙手多数であります。

よって、「社会（歴史的分野）」については、「日本文教出版」を採択することに決しました。

ここで、時間がだいぶ長くなりましたので、10分間の休憩をはさみます。

○教育長（袴田毅君）

はい、それでは再開します。

続きまして「社会（公民的分野）」について審議を行います。

事務局の説明を求めます。教育指導課長、お願いいたします。

○教育指導課長（春木純子君）

「社会（公民的分野）」について報告いたします。

検討結果報告書は、11ページから13ページを御覧ください。

「社会（公民的分野）」につきましては、「東京書籍」、「教育出版」、「帝国書院」、「日本文教出版」、「自由社」、「育鵬社」の6者について協議・検討を行いました。

6者ともに、中学校学習指導要領に示された公民的分野の目標を踏まえた工夫や配慮が感じられました。

「東京書籍」は、子どもたちにネット上のニュースや報道に対する見方・考え方を養うという点で書き方がわかりやすいという意見や、「ダイバーシティ」、「性の多様性」、「LGBTQ」、「公平性」について書かれていて良いなどの意見がございました。

また、「教育出版」は、「なぜ、メディアリテラシーは大切なのだろう」を取り上げ、これからの時代を生きていく子どもたちがネット上のニュースや行動に対する見方・考え方を養うことができ良いという意見や、SDGsの視点で公民を学ぶことで、これからの社会を意識しながら学べるところが良いというような意見がございました。

「帝国書院」は、子どもたちに伝えたい内容やメッセージが一目でわかるようになっており、公民だけで完結せず、歴史やその他の教科などとの関連性がわかりやすく良いという意見がございました。

「日本文教出版」は、『「ネット社会」とつき合う方法』という特集が良いという意見や、見開きで学習の流れがまとめられているので、授業の流れや学び方をイメージしながら取り組めるので良いなどの意見がございました。

採択検討委員会においては、「東京書籍」、「教育出版」、「帝国書院」、「日本文教出版」の4者が見やすく、学習課題が明確であるという点で評価が高く、「東京書籍」、「教育出版」、「日本文

教出版」の3者が、情報活用能力の育成や、ネット上のニュースの報道に対する見方・考え方を養うという点で、記述が充実していると評価が高くなりました。

また、「東京書籍」は、多様性について多く記述されているという点で評価が高く、「教育出版」と「帝国書院」は、他教科や小学校とのつながりという点で評価が高くなりました。

以上の点から、「社会（公民的分野）」につきましては、「東京書籍」、「教育出版」、「帝国書院」、「日本文教出版」の4者の評価が高いという検討結果になりました。以上でございます。

○教育長（袴田毅君）

それでは、「社会（公民的分野）」に関しまして、質疑・討論がございましたらお願いいたします。

はい、田中職務代理者。

○教育長職務代理者（田中恵吾君）

まず、結論からお話をさせていただきますが、「社会（公民的分野）」については、私は「日本文教出版」を推薦したいと思います。

「帝国書院」の教科書は、豊富な具体例やビジュアル資料、大きなイラストがたくさん使われていて、とてもわかりやすくなっていると感じました。

もう一つ、「自由社」についても触れさせていただきたいと思います。

「自由社」については、ページの構成は、とても特徴的だと感じました。

先ほども述べましたように、大きな写真や図表が「自由社」においても、とても多く使われていました。資料が目立つようになっていると思います。

こうした中で、最初に述べた「日本文教出版」を推薦する理由を3ポイントに絞って、意見を述べさせていただきたいと思います。

まず一つ目の理由は、公民という教科は、とても抽象的で生徒たちがイメージしにくい教科の一つだと思っていますが、「日本文教出版」の教科書はイラスト教材や丁寧な解説を使って、この問題を解決しようとしています。また、写真もとても効果的に使われています。

他の出版社も工夫されていますが、「日本文教出版」の教科書は、見開きの2ページで、1時間の授業が終わるように構成されていて、生徒が何をどう学べばいいのか、見通しやすいと思います。

そして、二つ目の理由ですが、神奈川県内の身近な事例が多く取り上げられていることです。

例えば、「小田原市の地産地消」、「大和の歩きスマホ禁止条例」、「相模原市のJAXAの津田さんのインタビュー」などが紹介されていました。

こうした身近な事例を取り上げることで、生徒たちは自分たちの生活と学びが直接つながって

いることを感じやすくなると思います。

このことによって、学習内容に対する興味や関心が高まり、さらには理解度が深まっていくものと捉えています。

さらには、自分の地域で実際に行われている取組を学ぶことで、社会への参加意識や地域への愛着が生まれるものと確信しております。

そして最後、三つ目の理由ですが、生徒がこれからの社会をどう生きていくかについても、しっかりと書かれている点です。

「人権」や「防災」、「平和」、「政治」、「経済」、デジタル化が進む中での「情報リテラシー」、そして外国との「領土問題」など、多くの問題に対して、どう対応すべきかが押さえられています。大切にしたい視点だと捉えています。

以上のことから、私は「日本文教出版」の「中学社会 公民的分野」を推薦したいと思います。以上です。

○教育長（袴田毅君）

他に御意見はよろしいですか。

はい。亀ヶ谷委員。

○委員（亀ヶ谷由美子君）

子どもたちがこれから先、生活していく上で、守らなければならないこと、選択する自由、それによって生まれる責任など、様々な社会のルールを学べる科目が「公民」だと思います。

今回は6者をしっかり読み込み、その上で特によかったと思えるものが3者ありました。

「東京書籍」は、選挙権や成年年齢の引き下げを受けて、18歳に向けて準備をするコーナーで取り上げられている、「18歳でできること、20歳でできること」や、選挙の流れなどを学ぶページの構成がとてもわかりやすく、現代社会の様々な課題をどのように解決すれば良いかを学ぶ「はちみつの争い」というタイトルで、仮想の五つの村によるはちみつをめぐる紛争について、「持続可能性」、「効率」と「公正」、「協調」の観点に着目して、自分の言葉で考えるコーナーがとてもよかったと思います。

また、「帝国書院」は、平等権と人権について、「見えない心を見るために」という中学生の作文が掲載されていました。

白杖を使い歩いている人を見かけたことによる、自分の中にある心の動きや捉え方の変化が、とても丁寧に書かれていました。

学校の道德の授業で先生に紹介された、ヨシタケシンスケさんの「みえるとかみえないとか」という絵本に奥深さを感じ、改めて図書館で本を借りて読んだこと、助けを必要としている人が、

いつでも手を取ることができ、必要な手を差し出すこともできる世の中へ。見えるものだけでなく、見えない心の中の気持ちも見ていきたいと書かれていたことに、とても感銘を受けました。

また、情報社会と人権については、政治に関する情報に対して、国や地方公共団体が保有する情報は、誰もが確認すべきとのことから、情報公開法や、情報公開条例が定められ、このことを知る権利として、どこの教科書にも掲載されていましたが、その一方、インターネットの普及により、個人情報に際限なく閲覧できてしまうことから、ヨーロッパでは、情報削除を求める「忘れられる権利」が保障され、日本でも、情報を表示し続けることよりもプライバシーの権利のほうが重要な場合には、検索表示などの削除の請求を認めているといった、「忘れられる権利」まで掲載しているのは、「帝国書院」だけでした。

そして、「日本文教出版」は、学習課題に対しての「見方」・「考え方」でヒントを得て、学習後に「確認」・「表現」で思考の整理ができるという、学習の流れを一番つかみやすい構成になっていると思います。

「公民」を理解する上で大切な「対立」と「合意」についても、その方法の中で、日本の領土問題について、排他的経済水域の重要性をわかりやすく解説した上で、解決のための取組についての掲載がありました。

また、日本国憲法と三つの基本原則もきちんと書かれ、第九条については、世論調査の結果が資料にあり、「戦力を持たない」についての改正に50%の回答が「ある」となっていることに衝撃を受けました。

不安定な国際状況の中、防衛を考えてのことだとは思いますが、戦力を高めることを答えにしてはいけないと思います。

やはり、平和的解決の方法を子どもたちには学んでほしいので、この資料を子どもたちに見て考えてもらいたいです。

また、「私たちの社会参画」というコーナーでは、「まちのバリアフリーを探そう」という題材がありました。

大阪府堺市にある音の出る信号機は、歩道も段差のないよう工夫されていたり、駅のエレベーターには低い位置にボタンがあり、誰でも押せるようになっていて、「エントランス」と「上」の表示には、点字もあり、教科書では、紙質を変え、実際にその点字に触れる作りになっていました。

様々なバリアフリー化がされている堺市の様子を学んで、これからの綾瀬市について考える良い時間になるのではないかと思います。

また、ネット社会と付き合う方法としては、問題点や、情報モラルだけでなく、情報の正確性

を大切にするため、フェイクニュースとの付き合い方や、フィルターバブルについてなど、様々な角度からのかかわり方と対処方法が、どの教科書にも丁寧に書かれていましたが、「新聞の読み方と伝え方を学ぼう」は、ネット社会だけでなく、マスメディアによる情報の編集について社会の出来事を公正な観点からとらえるメディアリテラシーが重要だということが、実際に複数の新聞社の記事を通して学べる構成になっていました。

以上、公民は情報量がとても多く、内容も年々複雑化しているのでとても悩みましたが、私は「日本文教出版」を推薦したいと思います。

○教育長（袴田毅君）

他に御意見等はよろしいですか。

はい。齊藤委員。

○委員（齊藤隆訓君）

私は、「教育出版」を推薦したいと思っております。

「教育出版」さんの本では、人が生きていくに当たり、共同生活の中で起きることを対立から合意という観点で、話を進めているのがすごくわかりやすかったと。

さらに、先ほど亀ヶ谷さんも仰っていたような、メディアリテラシーの取り扱い方も、大変良いのかなと。

特にネット環境でフェイクニュースの真実がどこにあるか、さらには、今後、チャットGPTとか生成AIが発達するにつれて、より情報の精査が重要になってくる。その中でこのワードを扱っているということが大変良いと思っています。

さらに私がいいなと思いましたが、川崎市の事例が載っておりまして、「子ども夢パーク」、「音楽によるまちづくり」、「市民オンブズマン」というこのまちづくりということが、5年、10年かけてなし遂げてきたことが少しずつ形になっているということがですね、伝えられると。それがこの綾瀬の子どもたちにとっても、川崎に行った時にこうなんだなというふうに感じられるということが素晴らしいなと思いました。

そのほかの教科書で、「育鵬社」さんのところでよかったなと思うところがありますので、お伝えさせていただきます。

こちらは財政と租税がすごくわかりやすくですね、「人生をデザインしよう」では自分が生まれてから死ぬまでの教育費や社会保険などの金額を入れてライフデザインをするという考え方を子どもたちに書かせる。

さらに、「政治の入り口」では討論、ディベートですね。ディベートをさせて、意見を聞きながら、討論していくということもすごく良いと。

で、その内容は、「より良い社会をめざして」という言葉をキーワードにして子どもたちに問いかけるということが本当に心に刺さりましたので、これはよかったかなと思います。以上となります。

○教育長（袴田毅君）

他に御意見等はよろしいでしょうか。

（ 質疑等の有無確認 ）

○教育長（袴田毅君）

質疑・討論なしと認めます。

これより、「社会（公民的分野）」について採決いたします。

それでは、発行者名を順に読み上げます。

「東京書籍」0名です。

「教育出版」1名です。

「帝国書院」0名です。

「日本文教出版」3名です。

「日本文教出版」挙手多数であります。

よって、「社会（公民的分野）」については、「日本文教出版」を採択することに決しました。

○教育長（袴田毅君）

続きまして「地図」について審議を行います。

事務局の説明を求めます。教育指導課長、お願いいたします。

○教育指導課長（春木純子君）

「地図」について報告いたします。

検討結果報告書の14ページ・15ページを御覧ください。

「地図」は「東京書籍」、「帝国書院」の2者について、協議・検討を行いました。

両者ともに、非常に見やすく使いやすい印象を受けるという意見がございました。

特に、「帝国書院」は、ページ全体に関わるテーマを主題学習という形で示したり、「地図で発見！」という問いのコーナーを設置したりして、地図帳を活用することで、思考力・判断力を養うという工夫が見られるという意見や、自学自習でも活用できるような工夫が見られ、子どもたちの思考力・判断力を育むために良いという意見がございました。

採択検討委員会においては、「帝国書院」が主題学習や、「地図で発見！」というコーナーがあり、思考力・判断力を育むような工夫や、自学自習にも活用できるなどの点で評価が高いという

検討結果になりました。以上でございます。

○教育長（袴田毅君）

それでは、「地図」に関しまして、質疑・討論がございましたらお願いいたします。

はい、田中職務代理者。

○教育長職務代理者（田中恵吾君）

地図については、結論から申し上げますと、私は、「帝国書院」を推薦したいと思います。

その理由について、2点ほどに絞ってお話しさせていただきたいと思います。

まず1点目ですが、「帝国書院」の地図は非常に見やすく、わかりやすく工夫されていることです。

例えば、「帝国書院」の地図では、ヨーロッパや中国など主要都市が鳥瞰図で描かれています。

これが、私、とても印象的でした。

鳥瞰図は立体的に見えるため、地形や自然環境の特徴を直感的に把握することに役立つと考えます。

また、地域の文化や歴史も含まれているので、地理だけでなく、社会全体を理解するのに適した地図だと思いました。

併せて、説明書を読むと、QRコンテンツが971点あると記載されていました。

私も全てを見ることはできませんでしたが、「NHK for school」の動画などを視聴してみました。

こうした動画を活用して領土や人口減少、過疎の問題についても、非常にわかりやすく説明されていました。

これも何度も言っていますが、こういうような、QRコンテンツは、個別最適な学びをサポートするものだと思います。

自分のペースで、家や学校で学習を深めることができると思っています。

以上の理由から、私は総合的に見て、「帝国書院」の「中学校社会科地図」を推薦いたします。以上です。

○教育長（袴田毅君）

他に御意見等はよろしいですか。

はい。亀ヶ谷委員。

○委員（亀ヶ谷由美子君）

地図帳は、「帝国書院」と「東京書籍」の2者でしたが、どちらも素晴らしい作りでした。

日本の領土については、どちらの教科書も充実した資料とともに、日本固有の領土である北方

領土、竹島、尖閣諸島について正しく理解できるよう掲載されていました。

「東京書籍」は、前回より大きいサイズのA4判になったことで紙面が広がり、地図も拡大され、資料のスペースも増えて、とても見やすくなりました。

また、前はなかった鳥瞰図も取り入れ、陸だけでなく、海の深さも色の濃度で立体化されているので、海底地形まで視覚的に捉えやすくなっていることに大変感動しました。

海の中まで見渡せる素晴らしい鳥瞰図だと思います。

また、日本の周辺地図では、日本の東西南北端や排他的経済水域が示され、近隣諸国との間で領土をめぐる問題を抱えている地域を、写真を交えて説明されているので、領域についての理解が深まると思います。

また、江戸時代末期と現代の東京の鳥瞰図が比較されているページが大変楽しく、様々な視点で、時代の移り変わりや地形の変化を知ることができ、特に、江戸城と現在の皇居周辺の変化が見て取れました。

そして何よりも素晴らしかったのは、巻末にある600万分の1の日本列島の地図でした。

見開きページと、とじ込みページも使い、大きく見やすく掲載されているので、陸地の高さと海の深さも一目でわかるよう、色分けで立体化されていました。

また、同じページにある衛星写真のような日本地図と見比べて、土地利用や都市の位置、地形など、照らし合わせて考えることができるので、楽しく学べるのではないかと思います。

「帝国書院」は、世界の環境問題や脱炭素、食料問題、紛争についても、それぞれ見開きページを使い、左ページでは、課題を理解するための写真を、右ページには、問題解決への取組を紹介する写真を掲載しています。

地図を通して、どの地域でどのような環境問題が起こり、どの場所で、どのような取組が行われているのかが、とてもわかりやすく示されています。

また、広大な南北のアメリカ大陸の横には、同緯度、同縮尺の日本列島の地図が示され、比較できるようになっているため、どれほど大きな大陸なのかを視覚的に理解できます。びっくりするほど大きいのだと改めて知りました。

このような比較できる資料は、言葉でなく目で見てわかるので、とても良いと思います。

鳥瞰図に関しては、地形だけではなく、世界各州の自然環境や生活、文化、歴史、産業など、様々な特色が、より視覚的に読み取れるつくりになっていたり、アジアと日本の交流の歴史として、太平洋を上にして見る地図に、遣唐使や鑑真の船が、どのルートで日本に来たかがわかる資料だったり、日本の歴史、生活、文化のページには、伊能忠敬が作成した地図と、それよりずっと前の奈良時代に行基が作った地図が掲載されていて、大変驚きました。

奈良の大仏を作ったことで知られる行基は、地図も作っていて、それが奈良時代から江戸時代の1000年の間使われていたと掲載されていました。

歴史についての資料は、どれも大変楽しく学習できるものばかりでした。

そして、特にわかりやすいと感じたのは、日本の自然災害、防災のページでした。

地震や火山による自然災害についての発生過程、被害、対策が学べ、気象災害については、新しく線状降水帯の仕組みや、降水の様子を表した資料があり、これからの気象災害についてしっかり考えていけると思います。

また、日本の統計については、都道府県別に、人口や面積、人口密度など、様々な分野での数値が出ていましたが、データが「帝国書院」は2022年のもので、「東京書籍」は2021年のものでした。

最新データが見たいという点では、「帝国書院」なのかなと思います。

今回は、どちらも素晴らしいつくりで、大変悩んでしまいましたが、地図上での様々な歴史についての掲載や、太平洋を上にして、日本が書かれている地図の見せ方がとてもよかった「帝国書院」を私は推薦したいと思います。

○教育長（袴田毅君）

はい、ほかに御意見はよろしいでしょうか。

（ 質疑等の有無確認 ）

○教育長（袴田毅君）

質疑・討論なしと認めます。

これより、「地図」について採決いたします。

それでは、発行者名を順に読み上げます。

「東京書籍」0名です。

「帝国書院」4名です。挙手全員であります。

よって、「地図」については、「帝国書院」を採択することに決しました。

続きまして「数学」について審議を行います。

事務局の説明を求めます。教育指導課長、お願いいたします。

○教育指導課長（春木純子君）

「数学」について報告いたします。

検討結果報告書の16ページから18ページを御覧ください。

数学は「東京書籍」、「大日本図書」、「学校図書」、「教育出版」、「新興出版社啓林館」、「数研出版」、「日本文教出版」の7者について、協議・検討を行いました。

「東京書籍」は、本の手触りがよく、文字が大きく、色遣いもやわらかくて読みやすい点、経口補水液の作り方など生活上の事象と数学等に関連させている点、数学Ⅰで、算数の学習内容の定着に不安が残る生徒もフォローできる構成になっている点などが良いという意見がございました。

また、「学校図書」は、目標が赤い線で囲まれ、何を目標にしているのかがわかりやすく、教科書を開いてみたときに読みやすい点、各章の扉で何を学習するかが記載されており、学習の流れが非常につかみやすいという点、学習のまとめが充実して書かれている点が良いという意見がございました。

また、「数研出版」は、小学校とのつながり、系統性を考えられている点が良いという意見がございました。

採択検討委員会においては、「学校図書」が単元の目標がわかりやすく、章の導入に学ぶ内容が示されていて学習の流れがつかみやすいという点、まとめが充実しているという点で評価が高く、「東京書籍」は全体的に読みやすく、落ちついた色遣いで目に優しいという点、複数の解き方や数学の計算の解き方のコツが記載されているという点で評価でき、「数研出版」は、2次元コードの記載が多く、デジタルコンテンツの充実が図られている点、小学校とのつながりが充実して記載されている点で評価できるという検討結果になりました。以上でございます。

○教育長（袴田毅君）

それでは「数学」に関しまして、質疑・討論がございましたらお願いいたします。

はい、田中職務代理者。

○教育長職務代理者（田中恵吾君）

数学については、「数研出版」の「これからの数学」と、「学校図書」の教科書、非常に選択するのを迷いました。

最終的に、結論から言いますと、「学校図書」の教科書を推薦したいと思います。

数研の教科書について、高く評価したいのは「TRY」というコーナーがありまして、生徒のつまづきやすい箇所に気付ける工夫、あるいは問題を解く手がかりが非常に多く、広い視野から示されている点です。この点については、高く評価したいと思います。

そして私が最終的に選んだ「学校図書」について、その理由としては、3点に絞ってお話をさせていただきます。

一つ目は、「学校図書」の教科書は、生徒の興味や関心に沿った構成になっていると感じました。

数学の内容はしばしば抽象的で、特に方程式とか関数といったテーマは難しく感じられること

が多いという調査もあります。

多くの生徒が、何をどう考えて解けば良いのかわからない。

数字や記号が並んでいるだけで頭が痛くなる、といった苦手意識を持つことが多いそうです。

そうした苦手意識を和らげるためには、身近な問題や具体的な状況を多く取り入れている「学校図書」の教科書、とても興味を引きやすくしていると思いました。

次に２点目です。論理的な思考過程を大変重視していると感じました。

生徒が、論理的に考える力を養うために、様々な工夫が随所に見られます。

そして最後に３点目ですが、この教科書はQRコンテンツを本当に有効に使っていると感じました。

例えば、具体的には巻末のプログラミングを体験しようというセクションでは、スクラッチを活用して、比例定数や一次関数の切片を変えてグラフの傾きを調べるといったサンプルプログラムが提供されています。

このことにより、生徒は実際に手を動かして、学びながら、数学の概念を深く理解することができるのではないかと感じました。

さらには、教科書の表紙に工夫があります。

例えば、１年生の表紙は「宇宙をめぐる円周率」、２年生の表紙は「海流の層を泳ぐ多角形」、３年生の表紙は「地上を覆う重力と自然」といったテーマが描かれています。

これらの表紙にはQRコードがついていて、生徒はタブレットを使って画像を見たり動かしたりすることができます。

これらのことは他の教科書には、私は見るできませんでしたので、大きな特徴だと思っています。

こうした観点から、「学校図書」の「中学校数学」を推薦したいと考えます。以上です。

○教育長（袴田毅君）

他に御意見等はよろしいですか。

はい。齊藤委員。

○委員（齊藤隆訓君）

私も「学校図書」を推薦したいと考えております。

私の感じたことが、文章が多めで数式が少なくなっているという点で、子どもたちがとっつきやすいだろうということを感じております。

さらに、文章をきちんと読んでからでないと数式に行かないので、この綾瀬の傾向である文章題に強くなるという教科書だと感じました。

そこでの説明も、一つ一つステップを踏んで、「どうしてこうなるのか」の説明が丁寧で大変わかりやすかったと思います。また、この章ごとの振り返りも、大変わかりやすくて良いと思いました。

他の教科書でもよかったなと思う点を挙げさせていただきたいなと思います。

「東京図書」に関しては、基礎・基本の内容に関し、例と問いで事前説明があり、子どもたちにとって、どこがわからないか個別で判断できるので、大変良いと思いました。

「大日本図書」に関しては、習った内容での、教科を横断した説明、例えば「製薬会社」、「地震のマグニチュード」など、実社会での応用の説明がわかりやすく、数学に興味を持ってもらいやすい内容となっていると思いました。

「教育出版」に関しては、「学習する前に」と「学習のまとめ」があり、予習・復習が各章により理解度が判断できるので、とても良いと感じました。

また、「数学しごと人」で天気予報士、数学者、スポーツアナリストなど、実社会での数学が重要だという説明が大変良いと思いました。

「新興出版社啓林館」では、例と問いが大変わかりやすく巻末問題の問題量が適切と感じました。理由としては、間違えた問題の振り返りがしやすく、生徒自身が自分の理解度を判断しやすいのではと思いました。

さらに、「学びをいかそう」では、課題を出すことにより、より高度な問題に取り組むようになっているのが良いと思いました。

「日本文教出版」に関しては、「ふり返しシート」が大変わかりやすくできていると思いました。回答例も大変わかりやすかったです。

また、巻末の資料の正多面体の展開図に、番号が振ってあって、子どもたちが一番ひっきりやすいのですが、2次元展開図を3次元にしていくときにこの番号が記載されているのが大変良いと思いました。以上となります。

○教育長（袴田毅君）

他に御意見等はよろしいでしょうか。

（ 質疑等の有無確認 ）

○教育長（袴田毅君）

質疑・討論なしと認めます。

これより、「数学」について採決いたします。

それでは、発行者名を順に読み上げます。

「東京書籍」0名です。

「大日本図書」0名です。

「学校図書」4名です。挙手全員であります。

よって、「数学」については、「学校図書」を採択することに決しました。

続きまして「理科」について審議を行います。

事務局の説明を求めます。教育指導課長、お願いいたします。

○教育指導課長（春木純子君）

「理科」について報告いたします。

検討結果報告書の19ページ・20ページを御覧ください。

「理科」は、「東京書籍」、「大日本図書」、「学校図書」、「教育出版」、「新興出版社啓林館」の5者について、協議・検討を行いました。

5者の中でも、「新興出版社啓林館」は、探究について丁寧に記し、学習に対して補足的な部分が多数用意され、流れが非常にわかりやすい点、写真や図が豊富で、見開きページの真ん中のほうに文章がまとまっていることで、視覚的に視線の移動が少なく見やすくわかりやすいという意見がございました。

さらに、「探Q実験」、「みんなで探Qクラブ」、「探Qシート」というように、「探Q」という言葉を非常にたくさん使い、自然と子どもたちが理科の学習を通して「探究活動」に向かえるような工夫が良いなどの意見もございました。

また、「大日本図書」は「Science Press」があり、生徒たちが身近にイメージできるような内容の写真とともに、例えばアジサイの色を決める物質についての説明があるなど、探究のイメージが持ちやすい内容が記載されていて良いという意見がございました。

採択検討委員会においては、「新興出版社啓林館」と「大日本図書」の2者が、理科のキーワードとなる「探究」が充実しており、良いと評価しました。

「新興出版社啓林館」は、教科書全体の流れや探究活動の意義が丁寧に説明されている点、学習の流れがわかりやすいという点。写真や図がとても多く、視覚的にも見やすいという点で評価が高く、「大日本図書」は、サイエンス資料が充実しているという点で評価できるという検討結果になりました。以上でございます。

○教育長（袴田毅君）

それでは「理科」に関しまして、質疑・討論がございましたらお願いいたします。

はい、亀ヶ谷委員。

○委員（亀ヶ谷由美子君）

理科の学習で一番大切なのは「探究心」だと考えています。

その中で特によかったと感じたものが2者ありました。

「東京書籍」は、単元ごとのとびらのページで、AB版の紙面いっぱいに広がる写真が目飛び込んでくることで、主題がはっきり伝わり、思考や学習意欲の向上にもつながる構成になっていました。

また、各学年の巻頭に設定されている「科学の本だな」や、理科を学ぶ上での知識の解説ページがとても丁寧でした。

単元の初めには、「スタート動画」で、これから学習することが理解でき、QRコードからのワークシートには、学習前の考えと学習後に理解したことが書けるので、学習前と比べて、自分の考えがどのように変わったか、思考の整理ができます。

また、各章に入る前のページには、小学校の振り返りと、その単元で学ぶことが示されていました。

課題に対しては、「理科の見方・考え方」を、キャラクターが教えてくれるので、それをヒントに学習を進めていけると思います。

観察や実験に関しては「方法」、「記録」、「考察」のポイントと、道筋がしっかり示され、単元の終わりには、学習の内容の整理で学んだことを確認し、「確かめ問題」や「活用問題」で振り返り学習ができます。

また今回、とても嬉しかったのは、4年前の採択のときには、「新興出版社啓林館」にしか掲載されていなかった脊椎動物と無脊椎動物の透明骨格標本が、今回は「東京書籍」でも素晴らしい資料として掲載されていたことです。

わかりやすく学べる資料が増えることは、それだけ理科に対する子どもたちの探求心が高まることだと考えているので、今回のこの資料はとても嬉しく思いました。

そのほかにも、「いろいろな雲と天気」では、雲のできる高さを富士山と比べているので、積乱雲がどれだけ高いかということが一目で理解できたり、「ツバキの葉の断面図」や「温帯低気圧と前線のようす」、「毛細血管の断面図」など、大きく拡大した写真や絵を使い、視覚的にきちんと様子を捉えている工夫が、様々な場面で見受けられました。

また、「おてがる科学」というコーナーの「こんにやくで地震を感じよう」では、こんにやくで断層をつくり、地震が起こるまでの動きを再現するという、子どもたちの探求心を深めながら学べるものでした。

「東京書籍」は、いろいろな角度から楽しく理解できる教科書だと思います。

そして、次に「新興出版社啓林館」ですが、「探究のとびらを開いてみよう」と「濃溝の滝」が見開きページいっぱいに広がっていました。

単元に入る前に、ポイントや探求的な進め方の解説ページが設けられ、導入ページには、関心を高める素晴らしい写真が掲載されていました。

また、同じページにある「学ぶ前にトライ！」と、「学んだ後にリトライ！」では、学習前に考えたことが、学習後どのように変わったかなどを書き込む「ふり返しシート」がQRコードで出せるようになっていました。

シートには、学び方の目標や各章での大切な考え方なども記載されているので、思考の整理をしながらの振り返りがしっかりできると思います。

また、「つながる学び」では、QRコードにより、出題形式で過去の振り返りができました。

各章においては、やはり透明骨格標本が素晴らしく、今回は標本になる前の姿も並んで掲載されているので、視覚的理解がさらに深まると思います。

「新興出版社啓林館」の素晴らしさは、このようなさらに一歩先の工夫でレベルの高い資料を掲載しているところだと思います。

「ためしてみよう」では、「チリメンモンスターの観察」と題して、既に何だろうとわくわくしてしまうのですが、ちりめんじゃこに入っている生物を顕微鏡などを使い、特徴ごとに分類するという、とても楽しそうな題材でした。

観察や実験などは、「目的」、「方法」、「結果」、「考察」、「ふり返し」で、注意事項は赤で細かく記載されていました。

章の終わりには、「学習のまとめ」と「力だめし」で振り返る流れです。

「深めるラボ」では、湖底で時を刻み続けるタイムカプセルを年縞といい、福井県の水月湖の底には、7万年前から現在に至るまでの年縞が眠っているようで、過去の気候の推測や、ほかの場所の地層の年代を決める世界的基準として利用されていることが記載されていました。

また、地球が誕生して、現在までの46億年間で1時間に短縮したときの、地質年代の長さを表した地球史時計のイラストがあり、人類が誕生した700万年前は、この時計では59分54秒の出来事だということから、地球誕生と人類誕生のとてつもない時間差をわかりやすく伝えてもらえる資料でした。

また、巻末の「サイエンス資料」は、理科の学習について、様々な視点から学べ、「探Qシート」では、単元ごとに課題や仮説、計画など、自分の言葉で書き込めるものになっています。

今回は、「東京書籍」も「新興出版社啓林館」も、資料の掲載方法がとても素晴らしく、どちらも理科に対しての探求心を最大限に引き出すつくりになっていると思います。

どちらかを選ばなければならないのは、とても苦しい選択ですが、やはり資料の見せ方と、さらに一歩深く学べる要素がたくさん見受けられた「新興出版社啓林館」を推薦したいと思います。

○教育長（袴田毅君）

はい、ほかに御意見はよろしいでしょうか。

齊藤委員。

○委員（齊藤隆訓君）

私も「新興出版社啓林館」を推薦したいと思っております。

どの教科書も素晴らしかったのですが、この「新興出版社啓林館」さんに関しては、教科の流れの中で、まず生命から始まり、その次に地球が来ておりました。

ほかの教科書だと大体物質といったところに行くのですが、やっぱりこの子どもたちの探求心ということを考えたときには興味を持ちやすいのではと感じました。

さらに最初に、教科書全体や探求学習の意義が丁寧に説明をしてあって、わかりやすいと思いました。

あと子どもたちの興味を引きやすい実験道具というところを、「新興出版社啓林館」さんは、実験道具をまず全体を映す、十何種類ある実験道具を写してですね、その中から個別に説明をしていくということで理解が大変しやすいなというふうに思い、より子どもたちが興味を持ちやすいというふうな教科書だと感じましたので、「新興出版社啓林館」さんを推薦させていただきたいというふうに思っております。

あと、ほかの教科書も良かったところがありますのでぜひここでお伝えさせていただきたいと思っております。

「大日本図書」さんは実験結果の例が大変わかりやすかったです。

また、「くらしの中の理科」、「Science Press」では、日常生活、文化伝統、環境保全という内容で子どもたちが理科にもっと興味を持ってもらえる内容になっていると思いました。

「学校図書」に関しては、写真と注釈が大変わかりやすかったです。

学年を越えての振り返りがあり、子どもたちにとって大変有効だなと思いました。

また、対話形式での内容となっているので、子どもたち同士が議論をして進めていくのがイメージできる内容となっており、そちらが良いと思いました。

「教育出版」に関しては、表紙にインパクトがあり、興味をそそられました。

子どもたちが体系的に覚えられるような説明もあり大変良いと思いました。

「ハローサイエンス」に関しては、歴史的つながりを踏まえながら、現在・未来の科学につながっているのがわかりやすくて良いと思いました。以上となります。

○教育長（袴田毅君）

はい、ほかに御意見はよろしいでしょうか。

(質疑等の有無確認)

○教育長（袴田毅君）

質疑・討論なしと認めます。

これより、「理科」について採決いたします。

それでは、発行者名を順に読み上げます。

「東京書籍」0名です。

「大日本図書」0名です。

「学校図書」0名です。

「教育出版」0名です。

「新興出版社啓林館」4名です。挙手全員であります。

よって、「理科」については、「新興出版社啓林館」を採択することに決しました。

それではここで15分間休憩を入れます。

○教育長（袴田毅君）

それでは再開いたします。

続きまして「音楽（一般）」について審議を行います。

事務局の説明を求めます。教育指導課長、お願いいたします。

○教育指導課長（春木純子君）

「音楽（一般）」について報告いたします。

検討結果報告書の21ページ・22ページを御覧ください。

「音楽（一般）」は「教育出版」、「教育芸術社」の2者について協議・検討を行いました。

「教育芸術社」は、教科横断的になっている点、音楽を形づくっている要素について丁寧に解説している点、器楽との結びつきがある点、音楽の多様性を理解しやすいつくりになっている点、「学びのコンパス」など、主体的・対話的な学びの手だてが立てられ、共同的な学習ができる工夫があり良いという意見がございました。

採択検討委員会においては、「教育芸術社」が教科横断的な学習の工夫、音楽を形づくる要素について丁寧な記載があるという点、「学びのコンパス」で主体的・対話的な学び、協働的な学びが行える点、多様性ということで考えると諸民族の音楽の記載が充実している点、演奏者の記述など、音以外の記載、音楽につながる仕事、SDGsとの関連の記載が充実している点で評価が高いという検討結果になりました。以上でございます。

○教育長（袴田毅君）

それでは「音楽（一般）」に関しまして、質疑・討論がございましたらお願いいたします。

はい、平出委員。

○委員（平出恵子君）

私は、音楽の教科では、生徒がさまざまな音楽に触れ、楽しみながら、豊かな感性と表現力を身につけてほしいと思います。

「教育出版」と「教育芸術社」の教科書を読ませていただきました。

どちらも特徴的で素晴らしい内容でしたが、私は、「教育芸術社」の教科書を推薦したいと思います。

まず、「教育出版」の教科書には、「比較学習」という特徴があり、例えば、「ドレミの歌」と「エーデルワイス」、「夏の思い出」と「赤とんぼ」といった似たジャンルの音楽を比べることで、それぞれの曲想の違いを理解する工夫が見られました。

また、「音のスケッチ」では、生徒が興味を持って取り組めるリズム学習の例として、「食いしん坊のラップ」や「みそラーメンのラップ」などがありました。

さらに、「CMソングをつくろう」の教材は、自分の住む地域の名物や名所を紹介するCMソングを作成する内容でした。

生徒たちは、どんな綾瀬のCMソングをつくるのかしらと楽しみに感じました。

一方、「教育芸術社」の教科書は、表紙にいきいきと歌う中学生が描かれ、音楽の楽しさが伝わりました。

楽曲は、日本の伝統的な童謡や歌謡曲、クラシック音楽に加え、J-POPや海外のポピュラーソングまで幅広く取り上げ、生徒たちの興味を引く内容に感じました。

また、教材の内容もブラッシュアップされ、新設された「学びのコンパス」では、歌唱七教材、鑑賞七教材について、ワークシートを用いて、自分の考えをまとめて発表するなど、深い学びができる内容でした。

さらに、「My Voice!」では変声期における具体的な歌唱方法など、「My Melody」ではICTを活用したメロディーの創作活動など、豊かな表現ができるように感じました。

鑑賞については、オペラ「アイダ」の教材として、「教育出版」では2幕のみを取り上げていましたが、「教育芸術社」では全4幕扱っており、オペラのストーリーをより深く感じながら、鑑賞できると感じました。

また、中学生になじみのある「ライオンキング」などのミュージカルについても触れられており、生徒の感性を育む良い機会となるように感じました。

また、日本の民謡については、「教育出版」では「ソーラン節」の楽譜が五線譜で示されてい

ましたが、「教育芸術社」ではわかりやすい民謡譜を使用していました。

三味線を趣味としている私の意見としては、民謡譜のほうがこぶしを回す部分がわかりやすく、気合の入ったソーラン節を歌えるように感じました。

さらに、QRコンテンツも大変充実しており、特に歌唱楽譜の右下にある「カラオケ」をもじった「カラピアノ」は、ピアノ伴奏に合わせて歌の練習ができるため、私も何曲か楽しく歌わせていただきました。ちなみに、「大地讃頌」は熱唱でした。

以上の理由から、私は、「教育芸術社」を推薦したいと思います。以上です。

○教育長（袴田毅君）

ほかに御意見等はよろしいでしょうか。

はい、齊藤委員。

○委員（齊藤隆訓君）

私も「教育芸術社」を推薦したいと思っております。

こちらのほうは日本の伝統文化についての説明が丁寧でわかりやすかったという部分と、さらには様々な民族についての記載があり、文化の多様性への理解を、音楽を通じて深めることができる。

また、音楽につながる仕事やSDGsについての内容などは、他の教科との横断的なつながりも感じることができる内容となっていると感じて、「教育芸術社」さんが良いと思いました。以上です。

○教育長（袴田毅君）

ほかに御意見等はよろしいでしょうか。

（ 質疑等の有無確認 ）

○教育長（袴田毅君）

それでは質疑・討論なしと認めます。

これより、「音楽（一般）」について採決いたします。

それでは発行者名を順に読み上げます。

「教育出版」0名です。

「教育芸術社」4名です。挙手全員であります。

よって、「音楽（一般）」については「教育芸術社」を採択することに決しました。

続きまして、「音楽（器楽合奏）」について審議を行います。

事務局の説明を求めます。教育指導課長、お願いいたします。

○教育指導課長（春木純子君）

はい。「音楽（器楽合奏）」について報告いたします。

検討結果報告書の23ページ・24ページを御覧ください。

「音楽（器楽合奏）」は「教育出版」、「教育芸術社」の2者について、協議・検討を行いました。

「教育芸術社」はアンサンブルの教材を多く取り上げており、器楽合奏について「みんなで合わせる」という楽しさを学ぶことができる点、支援の手だてとして、みんなで合わせる前に個別学習において自分で練習を行うときに確認できるデジタルコンテンツがある点、スモールステップが取り入れられている点が良いとの意見がございました。

採択検討委員会においては、「教育芸術社」がアンサンブルの教材の充実が図られている点、デジタルコンテンツも含めて丁寧な構成になっているという点、楽器の紹介が丁寧にされていて、子どもたちの演奏してみたいという気持ちを高める構成になっている点で評価が高いという検討結果になりました。以上でございます。

○教育長（袴田毅君）

はい。それでは、「音楽（器楽合奏）」に関しまして、質疑・討論がございましたらお願いいたします。

はい、平出委員。

○委員（平出恵子君）

はい、私は器楽の教科書について、「教育芸術社」の教科書を推薦したいと思います。

まず、「教育出版」の教科書については、巻頭の見開きページに授業で演奏する楽器の写真が豊富にあり、写真と一緒に関連ページも掲載されているため、目次として効果的に活用できるように思いました。

リコーダーに関しては、「タンギング」など丁寧な説明がありましたが、リコーダーの運指のイラストが白黒である点が、少し見づらいうように感じました。

特に素晴らしいと感じたのは、「吹く楽器の仲間たち」と、「弾く楽器の仲間たち」のページです。世界各国の楽器が紹介されていました。

世界中の人々が様々な楽器を演奏し、楽しく歌う姿が想像でき、音楽の世界が広がる印象を受けました。

次に、「教育芸術社」については、中学校の器楽の授業で重要な「アルトリコーダー」について、基礎からしっかりと学べるように感じました。

各楽器の導入部分には、その楽器の鑑賞曲が掲載されており、鑑賞した内容を楽器演奏に生かせる工夫がありました。

楽器の説明については、楽器の特徴や歴史・文化だけでなく、姿勢や礼儀についてもきちんと示されていました。

和楽器に関しては、琴や三味線の演奏をしている手元の写真が、奏法ごとにわかりやすく解説されていました。

また、ギターの教材について、クラシックギター、フォークギターに加え、エレキギターまで幅広いジャンルの演奏法が紹介されており、生徒たちにとって興味深い内容となっていました。

ギターコードの運指も非常にわかりやすく解説されており、生徒たちが楽しみながら学べるように思いました。

最後に、楽譜については、生徒たちに親しまれる楽曲が非常に多く取り上げられており、「小さな恋のうた」のバンドスコアや「アラジン」の「A Whole New World」の楽譜などが掲載されていました。

様々な楽器を組み合わせ、アンサンブルを楽しみながら演奏し、豊かな感性と表現力を育んでほしいと思います。

以上の理由から、私は「教育芸術社」を推薦したいと思います。

○教育長（袴田毅君）

はい、ほかに御意見等よろしいでしょうか。

はい、齊藤委員。

○委員（齊藤隆訓君）

はい。私も「教育芸術社」を推薦したいと思います。

まず、教科書開いたときに様々な楽器が載っていて楽しさを感じました。

日本の楽器だけではなく、他の民族の楽器なども載っており、説明がわかりやすいと思いました。

また、生徒たちにとって、見開きのページの中でまとめられていますので、本を開きながら楽器を覚えるなど、そういう面でわかりやすいのではないかと思います。以上です。

○教育長（袴田毅君）

はい、ほかに御意見等はよろしいでしょうか。

（ 質疑等の有無確認 ）

○教育長（袴田毅君）

それでは質疑・討論なしと認めます。

これより、「音楽（器楽合奏）」について採決いたします。

それでは発行者名を順に読み上げます。

「教育出版」 0 名です。

「教育芸術社」 4 名です。挙手全員であります。

よって、「音楽（器楽合奏）」については、「教育芸術社」を採択することに決しました。

続きまして、「美術」について審議を行います。

事務局の説明を求めます。教育指導課長、お願いいたします。

○教育指導課長（春木純子君）

「美術」について報告いたします。

検討結果報告書の 25 ページ・26 ページを御覧ください。

「美術」につきましては、「開隆堂出版」、「光村図書出版」、「日本文教出版」の 3 者について協議・検討いたしました。

「開隆堂出版」は、情操教育の視点から、多様な質感や色合いが非常に素晴らしく、生徒同士が対話をしながら一つの空間や作品を作り上げていく教材・テーマの工夫がされている点、また、表紙の材質で生徒に面白さを味わわせるという点や、原寸大にこだわりを持っている点が良いとの意見がございました。

「光村図書出版」は、書き方の基本的な説明が丁寧にされている点、「風神・雷神」や京都の「三十三間堂」が所蔵する仏像など、修学旅行で実物と出会うチャンスがある作品が紹介されている点が良いとの意見がございます。

採択検討委員会においては、「開隆堂出版」が生徒同士の対話が記載されている点、創作意欲をかき立てる工夫があるという点、優れた芸術に触れるという視点から質感や色合い、原寸大で記載することを意識している点で評価が高く、「光村図書出版」は、別冊資料で技法等が丁寧にまとめられている点、3 年生で京都に行くことが多い綾瀬の生徒にとって、そこで出会う身近な題材が写真で掲載されているという点、他教科とのつながりを意識した構成になっている点で評価が高いという検討結果になりました。以上でございます。

○教育長（袴田毅君）

それでは、「美術」に関しまして、質疑・討論がございましたらお願いいたします。

はい、平出委員。

○委員（平出恵子君）

「光村図書出版」、「日本文教出版」、「開隆堂出版」の「美術」の教科書を読ませていただきました。

どの教科書も、歴史的に有名な絵画や彫刻など、様々な作品が取り上げられ、鮮やかな写真や動画などを用いて丁寧に説明されていました。

また、魅力的な教材や資料なども充実しており、現代の子どもたちは恵まれているなと感じました。

生徒たちには、美術の教科を通して、発想する力や表現する喜びを身につけ、人生を豊かにしてほしいと感じました。

そのような思いで、採択に当たらせていただきます。

1者目、まず目についたのは「開隆堂出版」の2冊の教科書で、表紙には圧倒的なインパクトがありました。

スペインのグエル公園にある「ドラゴンの噴水」の写真があり、モザイクタイルのようなつるつるとした特殊加工が施されていました。

もう1冊の表紙は、ゴッホの「ひまわり」で、絵の具が塗り重ねられた筆跡が感じられるほどこととした加工が魅力的で、生徒たちが美術の学習に興味を持つ素晴らしい表紙に感じました。

表紙をめくると、すぐに新海誠監督の「スズメの戸締まり」の映画のワンシーンとなった美しい扉の絵があり、自分らしく表現して「美術の扉を開こう」というメッセージがありました。

写真はどれも大きく迫力があり、特に「モナ・リザ」の原寸大の写真はドキッとするくらい印象的でした。ただ、文字のデザインの学習に関する資料がやや少ないように感じました。

次に2者目、「日本文教出版」についてです。

「日本文教出版」の教科書は、表紙と裏表紙が一体となっているため、見開きで美しく、迫力のある表紙に感じました。

教材の中で、最も印象的に感じたのは、「風神雷神図屏風」と「唐獅子図屏風」のページです。両観音開きのページが、実際の作品の折る位置に合わせて印刷されているため、教科書を屏風のように折ることで、本物に近い、より力強く、立体的に鑑賞することができる工夫がされていました。そのため、作品をより深く理解することができるように感じました。

最後に3者目、「光村図書出版」についてです。

「光村図書出版」には、別冊資料があるため、制作の際に、様々な技法や材料が使用しやすく、興味を広げて取り組むことができるように感じました。

また、資料も充実しており、日本と世界の伝統色図鑑では、「藤色」や「萌黄」などの日本の伝統色に加え、「マゼンタ」や「インディゴ」などの世界の伝統色と、その名前の由来が紹介されていました。その伝統色図鑑は圧巻でした。

観賞ページでは、ピカソの「ゲルニカ」が印象的で、4ページにわたる大きな作品に加え、「ゲルニカ」を制作するピカソの真剣な表情の写真と、戦争で焼かれたゲルニカの町の写真が大きく取り上げられていました。

生徒たちは、これらの作品からピカソの伝えたかったメッセージや思いなどを学び取ることができるように感じました。

また、「レオナルド・ダ・ヴィンチ」の「最後の晚餐」では、見開き2ページの大きな絵があり、QRコンテンツを活用して鑑賞すると、展示空間360度の写真があり、まるで実際にこの「最後の晚餐」の絵が展示されているグラツィエ修道院の食堂にいるかのような感覚で鑑賞することができ、本当に感動しました。

また、「奈良県興福寺の阿修羅像」も、360度の写真では、仏像の背後まで見ることができ、大変興味深く、生徒たちにもぜひ見てほしいと思いました。

さらに、日本の絵画のページでは、和紙のような風合いで原寸大の「鳥獣人物戯画」や「富嶽三十六景」など、よりリアルに近い感覚で鑑賞することができました。

作者の思いを想像しながら、作品を楽しむことができ、生徒たちの発想力と豊かな表現力が育まれるように感じました。

このような理由から、私は「光村図書出版」を推薦したいと思います。以上です。

○教育長（袴田毅君）

はい、ほかに御意見等はよろしいでしょうか。

齊藤委員。

○委員（齊藤隆訓君）

私は、「開隆堂出版」を推薦させていただきたいと思っております。

まずは、先ほども御意見がありましたように表紙の発想が素晴らしいと思いました。

これは1年と2年・3年の表紙の触感が、「美術は自由」だという印象を子どもたちに植え付けるのに物凄くインパクトがあるのではないかなと思いました。

あと、1年生は表現することを意識して、2年・3年は探求するという明確な流れができてるので、大変わかりやすいと感じました。

その中の絵や写真が、すごく美術というもののパワーを感じ、また、創作意欲の湧く教科書だと感じ、「開隆堂出版」を推薦したいと思います。以上です。

○教育長（袴田毅君）

他に御意見等はよろしいでしょうか。

（ 質疑等の有無確認 ）

○教育長（袴田毅君）

質疑・討論なしと認めます。

これより、「美術」について採決いたします。

それでは、発行者名を順に読み上げます。

「開隆堂出版」2名です。

「光村図書出版」2名です。

それでは過半数に達しておりませんので、私の意見を述べさせていただきます。

まず、どの出版社も「美術」の教科書ということで、「カラーユニバーサルデザイン」の視点から、色覚の個人差を問わず、多くの生徒が見やすくなるような配慮や工夫がされていました。

その中で私は、「美術」の教科書では、次の3点に注目しました。

1点目は、例えば修学旅行で見学可能な美術作品が紹介されているなど、本市の生徒にとって、より興味・関心が引き出される題材が紹介されていること。

2点目は、教科横断的な学習や他教科とのつながりをもとに、「美術」に苦手意識を持つ生徒にも学びに向かう力の育成が期待できること。

3点目は、「美術」という教科の特性上、鑑賞作品が豊富に紹介されていることが望ましく、そのための「デジタル教材」が充実していること。

以上の3点から、私は「光村図書出版」を採択することに賛成であります。

よって、「美術」については、「光村図書出版」を採択することに決しました。

続きまして「保健体育」について審議を行います。

事務局の説明を求めます。教育指導課長、お願いいたします。

○教育指導課長（春木純子君）

「保健体育」について報告いたします。

検討結果報告書の27ページから29ページを御覧ください。

「保健体育」は「東京書籍」、「大日本図書」、「大修館書店」、「G a k k e n」の4者について協議・検討を行いました。

「大修館書店」は、藤井聡太さんやはるな愛さんのコラムなど、生徒にとってよく知っていたり、身近であったりするなど、わかりやすいコラムが随所に盛り込まれていて、非常に子どもたちが関心を持ちやすい、また、課題のつかみ方も捉えやすく、わかりやすい点が良いという意見がございました。

採択検討委員会においては、「大修館書店」が生徒にとって身近なコラムが盛り込まれており、子どもたちが関心を持ちやすいという点、課題のつかみ方や、自分事として捉えられるような資料、題材などの工夫がある点、資料が枠組みになっていて、本文との区別がつきやすいという点で評価が高いという検討結果になりました。以上でございます。

○教育長（袴田毅君）

はい、それでは「保健体育」に関しまして、質疑・討論がございましたらお願いいたします。

はい、平出委員。

○委員（平出恵子君）

「保健体育」の4者の教科書を読ませていただきました。

どの教科書も充実した内容で、私たちの心と体の健康や安全な生活について、しっかりと学ぶことのできる教科書だと感じました。

各者の教科書の、特に印象的だった内容について申し上げます。

まず1者目、「大日本図書」は見開きページの右側にイラストや資料、左側に本文があり、見やすく、理解しやすい工夫がありました。

ページ下のミニ知識コーナーは、学びが深まるように感じました。

また、「喫煙や受動喫煙の害」に関して、喫煙者と受動喫煙者の肺の写真がありました。とてもインパクトがあり、喫煙による健康リスクを強く訴える内容に感じました。

2者目、「大修館書店」についてです。

ページ下に設けられた「保体クイズにトライ！」は、ウェブ上のクイズを通して学んだことを振り返り、確認するページとなっていました。

また、「ネットワーク利用犯罪の危険」というページでは、SNSへの書き込みが原因で起こった犯罪例などが挙げられ、危険回避の知識や方法が伝えられていました。

3者目、「G a k k e n」についてです。

章ごとに自身の学習理解度がわかる「振り返ろう」というコーナーがあり、自己評価ができる工夫がされていました。

また、新型コロナウイルスに関するページでは、病原菌の写真や新聞記事を掲載し、詳しく説明されていました。

4者目、「東京書籍」についてです。

単元ごとに、「見つける」、「学習課題」、「課題の解決」、「広げる」という学習の流れがありました。特に「活用する」では、教科書に考えを書き込んだり、グループで話し合ったりすることで、対話的な学習が進められ、理解が深まるように感じました。

また、各ページ本文の右側に資料が配置されているため、見やすく、すっきりとした印象を受けました。

私が最も興味深く感じたのは、「巻末スキルブック」です。

健康や安全に関する20のスキルがまとめられており、「心肺蘇生法の手順」や「AEDの使い方」、「熱中症の応急手当」、「災害発生時の行動」、「インターネットによるコミュニケーション

とトラブル」などが掲載されています。

これらのスキルは日常生活で役立つものばかりで、教科書で学んだことを実践できるよう巻末にまとめられていることが素晴らしいと思います。

また、動画による説明も充実しており、健康と安全に関する内容が理解しやすく、教科書を長く活用できると感じました。

以上の理由から、私は「東京書籍」の教科書を推薦したいと思います。以上です。

○教育長（袴田毅君）

はい、ほかに御意見等はよろしいでしょうか。

齊藤委員。

○委員（齊藤隆訓君）

はい、私は、「大修館書店」を推薦したいと考えております。

まず、この教科書は課題を提示し、自分たちで考える教材となっていることが良いと思いました。

また、「保体クイズにトライ！」があり、子どもたちが楽しみながら学んでいくことで、より興味を引き出せるのではないかと思います。

さらに特集資料が大変わかりやすいと思いました。

この中でも、特に重要なと思ったのが、感染症とがんの関係を載せているということですね。

これは現在置かれている問題というのが、免疫というところに、だんだん時代が変わってきている。そういう今の問題を定義することによって、大人になった時に役立つ内容ではないかと。

これを一応、参考資料というように載せているということで、改めて素晴らしいなというふうに思いました。

他の教科書でもよかった点を、ちょっと挙げさせていただきます。

「G a k k e n」さんに関してはですね、ページ見開きが本当に素晴らしくて、スポーツへの啓蒙が伝わってきました。

もう本当にスポーツ選手のコマ割りの部分がすごい躍動感があって良かったなど。

このいきいきの裏には何があるんだろうというところではその裏には「ウェルビーイング」の向上につながるようなイメージというのが伝わってきたんですね。この各年度末に「学習の終わり」という部分で、こういうところの「ウェルビーイング」などに対して振り返りができるというのが、大変良いと思いました。以上となります。

○教育長（袴田毅君）

他に御意見等はよろしいでしょうか。

(質疑等の有無確認)

○教育長（袴田毅君）

質疑・討論なしと認めます。

これより、「保健体育」について採決いたします。

それでは、発行者名を順に読み上げます。

「東京書籍」2名です。

「大日本図書」0名です。

「大修館書店」2名です。

それでは過半数に達しておりませんので、私の意見を述べさせていただきます。

まずはどの教科書も、3年間の使用に耐えられるよう、耐久性にすぐれた用紙を使用し、あるいは身体的負担に配慮し、軽量化されていました。

また、見やすさ、読みやすさを高めるため、「ユニバーサルフォント」が使用されています。

その中で、生徒がより主体的に深い学びができるよう、保健体育の教科書では、次の3点に注目しました。

1点目は、クイズ形式のデジタルコンテンツが準備されていたり、身近な有名人等のエピソードやコラムが多く紹介されていたりして、生徒の興味・関心を高める工夫がされている点。

2点目は、デジタル教材が豊富なだけでなく、そのデジタル教材を用いて授業が行えるよう配慮されていて、タブレット等のICT機器の活用を図ることで、深い学びにつなげることができる点。

3点目は、学習過程が3つのステップで構成されており、「綾瀬市型小中一貫教育」が目指す学習の振り返りが充実している点。

以上の3点を総合的に評価して、私は、「大修館書店」を採択することに賛成であります。

よって、「保健体育」については、「大修館書店」を採択することに決しました。

続きまして「技術・家庭（技術分野）」について審議を行います。

事務局の説明を求めます。教育指導課長、お願いいたします。

○教育指導課長（春木純子君）

「技術・家庭（技術分野）」について報告いたします。

検討結果報告書の30ページ・31ページを御覧ください。

「技術・家庭（技術分野）」は、「東京書籍」、「教育図書」、「開隆堂出版」の3者について、協議・検討を行いました。

「教育図書」は、将来にわたって必要な技能を身につけるための教材が豊富で、実生活に結び

ついた技能を身につけられるという点がよく、実際に実習するときに、薄くて持ち運びやすい別冊「スキルアシスト」がある点、また、プログラミングに関しても、非常にわかりやすく記載されている点、2次元コードがあり「情報セキュリティ」や「情報モラル」に関して重要な部分がしっかりとまとまっている点が良いという意見がございました。

採択検討委員会においては、「教育図書」が実生活のための技能を身につける教材の工夫が優れており、持ち運びやすく、作業の際にも取り出しやすい別冊資料がある点、「情報モラル」、「情報セキュリティ」がまとめて記載されているという点で評価が高いという検討結果になりました。以上でございます。

○教育長（袴田毅君）

それでは、「技術・家庭（技術分野）」に関しまして、質疑・討論がございましたらお願いいたします。

はい、田中職務代理者。

○教育長職務代理者（田中恵吾君）

技術分野については、私は「教育図書」を推薦したいと考えています。

技術の学習を端的に言えば、私は、物づくりの基本を主体的に学び、実際に手を動かして、創造力や実践力を養うことだと考えています。

そのためには、生徒の関心や興味を引く題材であるとともに、授業の流れが明確にされていることが重要だと考えています。

こうした考えのもとで「教育図書」を推薦したわけですが、3点ほどその理由を述べたいと思います。

1点目は、授業の展開が「見つめる」、「学ぶ」、「振り返る」の3段階で構成されています。

一コマ漫画で、生徒に「なぜ」、「どうして」を考えさせるようになっていました。

評価したいと思います。

2つ目は、ほかの教科書でも述べていますが、安全について、私は「教育図書」がしっかりと扱っていると感じました。

作業や実習には危険を伴うことが多くあります。動画ではんだづけの工程を見ましたが、成功例と失敗例が載っていきまして、非常にわかりやすいと感じました。

そのほかにも器具の扱いは言うまでもありませんが、服装や周りの環境についてもしっかりと示されていたと思います。

そして、3点目は何よりも、別冊で「スキルアシスト」があることです。

実習中に確認できるような解決方法が、非常に詳しく掲載されていると思いました。

卓上ボール盤やドリルの扱い方から始まり、植物の管理方法や回路系の取扱いがあります。

また、要所要所には、安全マークで注意事項が示されています。

以上のことから私は、「教育図書」の「技術・家庭 技術分野 明日を創造する」を推薦したいと思います。以上です。

○教育長（袴田毅君）

はい、ほかに御意見等はよろしいでしょうか。

はい、齊藤委員。

○委員（齊藤隆訓君）

私も「技術・家庭（技術分野）」に関しては、「教育図書」を推薦したいと思っております。

こちらは他の教科書と比べて制作物に関して、簡単なものと少し難しいものを提示することによって、生徒たちの探究心が掘り起こされ、作り上げる楽しさが伝わってくる内容となっています。

同じものを作るのではなくて、各個人の特色が出せるということで、物づくりという観点から考えたときに、より探究心とか創造力を育むという観点からいうとこの教科書が良いと思いました。以上となります。

○教育長（袴田毅君）

はい、ほかに御意見等はよろしいでしょうか。

はい、平出委員。

○委員（平出恵子君）

私は、「技術・家庭（技術分野）」の教科書として、「東京書籍」を推薦したいと思います。

私自身の中学時代は、技術と家庭科の教科は男女別の時代であったため、技術に関しては、簡単な木工加工程度の経験しかないため、その内容についてはほとんど理解できていませんでした。

しかし、「東京書籍」の教科書は、ガイダンスから始まり、イラストを用いて、技術の見方や考え方をわかりやすく学ぶことができるので、大変理解しやすいように感じました。

学習の流れも「目標」、「学習課題」、「本文」、「まとめ」が各ページにレイアウトされているため、わかりやすく、「技術の工夫」は学びを深めるための豆知識として役立つように感じました。

特に興味深い教材としては、運動エネルギーの変換では身近な自転車の仕組み、プログラミングでは最近レストランなどで見かける「自動配膳ロボット」の情報処理について取り上げていました。

ほかに、生徒の興味・関心を引く内容が多くあるように感じました。

また、情報技術の学習では情報セキュリティや情報モラルについても詳しく説明されており、

便利な点や注意すべき点が、とてもわかりやすく示されておりました。

以上の理由から、私は、「東京書籍」を推薦したいと思います。以上です。

○教育長（袴田毅君）

他に御意見等はよろしいですか。

はい。亀ヶ谷委員。

○委員（亀ヶ谷由美子君）

「技術・家庭（技術分野）」は、「開隆堂出版」を推薦したいと思います。

巻頭資料にある「ひみつ道具は実現している？」というタイトルで、「ドラえもん」のポケットにある道具の中で、実現されたものを紹介しているページはとても夢があり、これから始まる技術の授業に前向きに取り組める内容だと思います。

例えば、「ロボット・カー」は自動運転技術、「エアコンスーツ」は空調機能のある作業服、「ほんやくコンニャク」は自動翻訳機など、技術の進歩が身近なものにより理解できると思います。

また、「企業では、どのように製品開発を行っているのかな？」と題して、問題に向き合い、解決方法を探り、設計、試作、評価、テスト、分析を繰り返して、製品をさらに良くするという一連のプロセスが掲載され、ガイダンスでは、小学校の振返りから始まり、技術の役割、身の回りの製品の技術などを踏まえ、「技術の見方・考え方」、「問題解決の流れ」など、ページ数を使い掲載されていました。

章の最後には、「問題解決の評価・改善」ページで振り返り学習ができるので、思考の整理もしやすく、次の学習にもつながると思います。

以上のことから、私は、「開隆堂出版」を推薦したいと思います。

○教育長（袴田毅君）

他に御意見等はよろしいでしょうか。

（ 質疑等の有無確認 ）

○教育長（袴田毅君）

質疑・討論なしと認めます。

これより、「技術・家庭（技術分野）」について採決いたします。

それでは、発行者名を順に読み上げます。

「東京書籍」 1名です。

「教育図書」 2名です。

「開隆堂出版」 1名です。

それでは過半数に達していませんので、私の意見を述べさせていただきます。

まず、どの教科書も、デジタル教材が充実していて、個別最適な学びが実現できるよう工夫されていたり、事前学習や自己評価に役立つよう配慮されていました。

また、理解を助けたり、興味・関心を高めたりするための写真やイラスト、図表などが多数掲載されていました。

その中で、技術の教科書では、次の３点に注目しました。

まず１点目としては、本市が推進している「綾瀬市型小中一貫教育」の授業モデルの学習の流れである「目当て」や「振り返り」が明確に提示されていて、生徒にとって学びやすい教科書である点。

２点目としては、別冊としての「スキルアシスト」が持ち運びやすく、実習の際の作業工程の確認等に変有効である点。

３点目としては、一人１台のタブレット端末やスマートフォンを正しく扱うために、「情報セキュリティ」や「情報モラル」に関して、重要な部分が短く、しっかりとまとまっている点。

以上の３点から私は、「教育図書」を採択することに賛成であります。

よって、「技術」については、「教育図書」を採択することに決しました。

続きまして、「技術・家庭（家庭分野）」について審議を行います。

事務局の説明を求めます。教育指導課長、お願いいたします。

○教育指導課長（春木純子君）

「技術・家庭（家庭分野）」について報告いたします。

検討結果報告書の３２ページ・３３ページを御覧ください。

「技術・家庭（家庭分野）」は、「東京書籍」、「教育図書」、「開隆堂出版」の３者について、協議・検討を行いました。

「東京書籍」は、私たちの家族と家庭生活を最初に学習し、最後に、私たちの成長と家族、地域を学習するという、家族で始まって家族で終わる学習の流れになっており、非常に家族を大事に扱っている点、また「思考ツール」の活用をしっかりと行うことで、子どもたちに考えをまとめたり、整理したり、分類したりする思考判断・表現の部分で助けになる点が良いという意見がございました。

「教育図書」は、各ページの左上に目当てが書かれており、それぞれポイント・目的が明確になっている点、災害について非常によくまとまっていてわかりやすい点、図解が多く日々の生活につなげやすい点が良いという意見がございました。

採択検討委員会においては、「東京書籍」は、社会を構成する基本的な単位としての家族に対して記述がされている点、思考ツールの活用事例が記載されており、探求的な学びをする上で助

けとなる点で評価が高く、また「教育図書」は、目当ての記載がわかりやすくまとめられている点、災害の備えなどを図解で理由までわかりやすく書かれている点、日常の生活につながやすいという点で評価が高いという検討結果になりました。以上でございます。

○教育長（袴田毅君）

それでは、「技術・家庭（家庭分野）」に関しまして、質疑・討論がございましたら、お願いいたします。

はい、平出委員。

○委員（平出恵子君）

家庭科は、健康で、より豊かな生活を営むために、生きる力としてしっかりと身につけてほしいと思います。

3者の教科書ともに、家庭科の基礎的な技能が図や写真でわかりやすく示され、資料も実物大のものを扱うなど、工夫が感じられました。

それぞれの教科書で、興味深く感じられた内容としては、まず1者目、「開隆堂出版」は日本の郷土料理についてとても詳しく取り上げていました。

例えば、けんちん汁については作り方だけでなく、鎌倉市の建長寺が由来であることが説明されていました。

また、行事食について、お正月のお節料理の食材の意味や、なぜ柏もちをこどもの日に食べるか、などの説明があり、生徒の興味を引くように感じました。

2者目、「教育図書」には、「先輩に聞こう」というページが設けられ、日本の伝統的な上生菓子を作る和菓子職人やフィギュアスケートの衣装を作る衣装デザイナーが、中学生に向けた言葉を載せたページなどがありました。

3者目、「東京書籍」は、学習のまとめとして、単元ごとに学習した用語を、自分の言葉で説明する欄があり、主体的な学びができるように感じました。

調理実習のページでは、材料、分量、火加減、調理時間、ポイントなどが見やすく、副菜の調理例のレシピもあり、献立として料理を効率的につくる手順が書いてありました。

また、ミシンの使い方について、3者を比較すると、「東京書籍」が、細かい作業工程までイラストを使い、わかりやすく示されていました。

さらに、「東京書籍」の家庭科の教科書は、4年前の採択の際も、私は動画が素晴らしいと申し上げたのですが、その際は97QRコンテンツだったものが、今回、373QRコンテンツに増え、大変充実していました。

例えば、6つの食品群クイズや1日の献立の自動計算などは、楽しみながら学べるように感じ

ました。

アジの3枚おろしや、着物の畳み方、浴衣の着方などの動画は、とても勉強になると思います。

また、幼児の成長や高齢者介護など、生活に関わる様々な動画があり、中学校卒業後も、将来にわたり活用できる内容に感じました。

以上の理由から、私は、「東京書籍」を推薦したいと思います。以上です。

○教育長（袴田毅君）

はい、ほかに御意見等はよろしいでしょうか。

亀ヶ谷委員。

○委員（亀ヶ谷由美子君）

家庭科は、子どもたちの日常生活に一番密着し、食生活をはじめ、生きていく上でとても大切な事柄を学習する教科だと思います。

その中で、2者に目がとまりました。

「教育図書」は、幼児の身体の発達を学習するページの最初に生まれたばかりの赤ちゃんの小さな手形が掲載されていました。

赤ちゃんに対する気持ちが入りやすく、そのあとに続く学びについても取り組みやすくなるのではないかと思います。

また、健康と食生活では、「食習慣すごろくをつくってみよう」というコーナーがあり、すごろくの丸のマスには、健康に良い食習慣と何マス進むかを書き、四角のマスには、よくない食習慣と、何マス戻るかを書いてグループで発表し、どこがよかったかを評価し合うというもので、楽しみながら正しい食習慣を学べる、とても良い題材だと思いました。

調理実習のレシピについては、材料に食物アレルギー物質を含む食材が使われている場合、その材料の代替になる食品までしっかり記載されていたところに、とても丁寧な配慮を感じました。

また、巻末の資料の中に、今回、様々な教科でも取り上げられていたフェアトレードについての記載がありました。

その中で特に問題となっているのはカカオですが、発展途上国の同じような歳の子どもたちが置かれている状況を踏まえ、家庭科の食と消費の問題をとらえた上で、その先の発展的な解決につながる考えを子どもたちみんなで話してもらえたらと思いました。

次に、「東京書籍」ですが、QRコンテンツがとても充実していました。

幼児の生活と家族では、幼児の世界をQRコードで体験でき、幼児の目線で、家の中や階段、公園などを見ることができました。

また、私たちの食生活では、1日の献立を考えるページでのQRコードが大変よかったです。

自分で考えた献立を入力すると、栄養素のバランスを判定してもらえるので、とても楽しく学べるコンテンツだと思います。

これは、ほかの教科書会社にも設けられていましたが、「東京書籍」が一番使いやすかったです。

そして、食物アレルギーについては、とても詳しく記載されていました。

症状や原因食物に加え、周りで食物アレルギーを発症した人がいたときの対処方法などを考える問かけもあり、いざというときに慌てず対処できるためにも、大切なことだと感じました。

また、「サステナブルクッキングに挑戦しよう」という題材では、余った野菜を使ってドライカレーをつくるというもので、とても良い取組だと思いました。

レシピも掲載されていたので、小麦粉は米粉で代替し、実際に作ってみましたが、夏野菜のトマト効果もあり、とても美味しくできました。

簡単なので、子どもたちにもぜひ挑戦してもらいたいと思います。

また、ユネスコ無形文化遺産に登録された和食についての資料の中で、和食料理人の笠原将弘さんのコメントが掲載され、「料理をするときには、食べてくれる人のことを思って、楽しく料理することが大切です」と、和食の魅力や献立について語られていたことがとても印象的で、本当にそのとおりだと思いました。

子どもたちにも、家庭科の授業を通して、料理の楽しさが伝わる時間になればと思います。

以上のことから、全体を通して、とても楽しく学べると感じた「東京書籍」を私は推薦したいと思います。

○教育長（袴田毅君）

他に御意見等はよろしいでしょうか。

（ 質疑等の有無確認 ）

○教育長（袴田毅君）

それでは、質疑・討論なしと認めます。

これより、「技術・家庭（家庭分野）」について採決いたします。

それでは、発行者名を順に読み上げます。

「東京書籍」4名です。挙手全員であります。

よって、「技術・家庭（家庭分野）」については、「東京書籍」を採択することに決しました。

続きまして「英語」について審議を行います。

事務局の説明を求めます。教育指導課長、お願いいたします。

○教育指導課長（春木純子君）

「英語」について報告いたします。

検討結果報告書の34ページから36ページを御覧ください。

「英語」は、「東京書籍」、「開隆堂出版」、「三省堂」、「教育出版」、「光村図書出版」、「新興出版社啓林館」の6者について、協議・検討を行いました。

「東京書籍」は、英語の構造を学ぶところに注力している点がよく、「三省堂」は、単語集に「Classroom English」が掲載されている点、「My Dictionary」が生徒にとって見やすい点、「Listen & Read」が、英語が苦手な生徒にとって取りかかりやすい記載である点などが良いという意見がございました。

また、「光村図書出版」は、3年生の巻末資料に、その後の英語の勉強の仕方のアドバイスが書かれている点が良いとの意見がございました。

採択検討委員会においては、「三省堂」は単語集が充実している点、「Classroom English」や英文例が記載されている点、字体や行間が見やすいという点、会話について文章がコンパクトで反復練習しやすい点などで評価が高く、「東京書籍」は英文と日本語の構造ということ意識した内容構成になっている点、「光村図書出版」は小学校からの継続、中学校が終わった後のつながりが意識されているという点で評価が高いという検討結果になりました。以上でございます。

○教育長（袴田毅君）

それでは、「英語」に関しまして、質疑・討論がございましたらお願いいたします。

はい、平出委員。

○委員（平出恵子君）

私は、英語教育について、少し私事をお話することになりますが、先日、韓国に旅行に行った際に、韓国人の、特に若い方の英語力が本当にすごいと実感しました。

韓国では、1997年、今から27年前から、小学3年生以上で英語教育が必修となり、2008年には小学1年生から必修となったそうです。

一方、日本では4年前に小学3年生以上の必修化が始まったばかりなので、その差は歴然と感じました。

これからのグローバル社会、生徒たちには、外国の人と自信を持って楽しくコミュニケーションをとってほしいと思います。

そのためには、生徒たちが英語に親しみを持ち、意欲的に学びたいような英語教育が必要だと思います。

そのような思いで、教科書の選定に当たりたいと思います。

6者の英語の教科書を読ませていただきました。

どの教科書も大変すばらしかったのですが、私は、「東京書籍」の「NEW HORIZON」を推薦したいと思います。

「東京書籍」の「NEW HORIZON」は、1年生の1学期は、小学校で学んだ英語の音と文字の関係を丁寧に復習することで、中学校の学習内容がスムーズに理解できるよう構成されていました。

また、文法のページには、色分けされた豊富な例題とわかりやすい説明があり、基礎的な英語力がしっかりと身につくように感じました。

さらに、「Activity」では、クラスメイトとコミュニケーションを図るシーンが多くあり、自分の意見をきちんと伝えることができるように感じました。

その上で、私が特にこの教科書の素晴らしいと感じたところは、QRコンテンツについてです。

「Key Sentences（解説動画）」では、陽気でネイティブな外国人とキャラクターがとてもわかりやすく、文法の解説をしていました。

また、「マスク機能」があり、本文の隠したい単語を隠しながら学習できるので、「読む」、「書く」、「聞く」を効果的に学ぶことができるように感じました。

さらに、単語学習においても使用しやすい、充実した内容でした。

ほかにも、学習に役立つITの時代に即した優れた機能が数多くあり、学校だけでなく、家庭学習としてもしっかりと活用できるように感じました。

さらに、全学年通して、カナダのバンクーバーの生徒と国際交流をしながら事業を進めるようなページがあるため、タブレットを通して国際感覚が身に付くように感じました。

一方、今まで綾瀬市で使用してきた「三省堂」の「NEW CROWN」は、イラストや漫画、写真などを多く使用し、説明が丁寧に楽しく学習を進められる印象で、さらに、コミュニケーションもあるため、実生活で活用できる充実した内容に感じました。

ただ、気になったのはQRコンテンツについてです。

使われる解説のほとんどが日本人女性による講義のような動画であり、その他の機能についても、少し残念に感じました。

仮に、教科書の変更があった場合、2・3年の生徒たちは、最初は戸惑うかもしれません。しかし、現在小学校で使用している英語の教科書は、「東京書籍」であり、小中の接続もスムーズに行われるように思います。

私は、英語教育においては、特にITを活用し、タブレットなどを効果的に使用するべきだと思います。

そして、グローバルな視野でコミュニケーションを図り、生徒一人一人が英語に親しみを感じ、楽しく、意欲的に学べる教科書が適しているように思います。

以上の理由から、私は「東京書籍」の「NEW HORIZON」を推薦したいと思います。以上です。

○教育長（袴田毅君）

はい、ほかに御意見はよろしいでしょうか。

はい、亀ヶ谷委員。

○委員（亀ヶ谷由美子君）

英語は2者に目がとまりました。

「開隆堂出版」の小学校の振り返りのユニットでは、学んだことを生かし、グループで指令をクリアしながらゴールを目指す、「英語すごろく」がとてもよかったです。

答えた人以外のメンバーは、英語でリアクションをとることを求められているので、楽しみながら英語を「話す」、「聞く」の振り返りができると思います。

文法をまとめた「英語早わかり」は紙面とQRコードの動画の両方で確認できるので、理解しやすいと思います。

その他のコンテンツとしては、教科書の英文や単語の発音はもちろんですが、「単語学習アプリ」がとても楽しかったです。

日本語訳と英語訳が選択できて、採点してもらえ、キャラクターの女の子が褒めてくれたり、励ましてくれたりするので、学習意欲も高まるかと思います。

また、巻末にある「Word Web」では、単語をジャンル別にまとめて示したページや、英語の発音についての解説など、学習を進める上で、助けになる情報を取り上げているので、予習や復習にも良いかと思いました。

また、「Coffee Break」では、日本語と英語のオノマトペや色を使った「英語の慣用句」、「英語の略語表現」などが掲載され、とても楽しく英語に触れることができるコーナーでした。

題材には、身近な話題から始まり、2年生では、広島の「平和記念公園」や「原爆ドーム」、「厳島神社」などを取り上げ、3年生では、チョコレートの歴史とフェアトレードの重要性、海洋プラスチックごみの問題なども掲載されていました。

学習の進め方としては、単元ごとの「とびら」で、見通しを立てることができ、ペアで行う「Small Talk」により、即興力の育成や学習内容の定着につながると思います。

次に、「東京書籍」ですが、UNITごとに、題材、活動目標、文法事項が記載されている目次が、とてもわかりやすく、学習の見通しが立てられると思います。

また、各学年の巻頭にある「学び方コーナー」は、英語学習の様々なコツがまとめられ、QRコードで解説動画を見ることができます。

UNITの構成については、課題が明確に書かれていて、ストーリーのダイジェスト版をQR

コードで聞けるので、これから読む本文の内容をイメージできると思います。

また、UNIT 4までは、「Enjoy Communication」で、小学校で学習した表現を使い、話す活動を通して、本文へつながることができ、1年の前半で、小学校の振り返りも含め、Be動詞や一般動詞、HeやSheを主語とする文、及び疑問詞についても、スモールステップで丁寧に学習できる構成になっていました。

また、文法の説明もとてもわかりやすく、ユニットごとの「Key Sentences」の解説動画でも、文法についてとてもわかりやすく教えてもらえるので、自宅学習でも心強い味方になるはずです。

また巻末の「語順カード」は、つまずきが多く見られる主語、動詞の語順や品詞の理解に役立ち、「Small Talk」には即興のやりとりをシミュレーションできる練習用動画があるので、自宅で視聴して練習することで、予習や復習にもつながると思います。

また、嬉しかったのは、1年で「ごんぎつね」が題材になっていることでした。英文の「ごんぎつね」は、とても新鮮で、学習意欲も膨らむと思います。

以上、2者がとても素晴らしい教科書だと思いますが、丁寧なスモールステップと文法の解説がとてもわかりやすく、英語を学ぶ子どもたち目線になって考えた結果、英語が好きな生徒も、英語を得意としない生徒や学校に通えていない子どもたちも、家庭学習で前向きにしっかり学べる素晴らしいQRコードのコンテンツがたくさん備わっている「東京書籍」を私は推薦したいと思います。

○教育長（袴田毅君）

ほかに御意見はよろしいでしょうか。

はい、齊藤委員。

○委員（齊藤隆訓君）

私は「三省堂」の教科書を推薦したいと思っております。

この教科書をまず開いたときに、文字の大きさ、行間がちょうど良い間隔で、まず見やすいなと思いました。

そういうふうに思うということは、子どもたちはなおさらそういう感覚を取りやすいと思っています。

また教科書の中で記入ができて教科書の中で完結するというのが、素晴らしく良いなと思いました。

子どもたちが英語で引っかかる部分を、「Language Focus」ということで、そこに焦点を絞ることによって、一人称単数とか、あと現在進行形とか過去完了とかそういうところの、子どもたちが大人になるにつれて、英語を勉強するにあたって引っかかるところにフォーカスをしていま

すので、わからないまま進んでしまうより、ここで確認し、理解を深めることがすごい重要だと感じております。

文章が全体として短くて、読んで復唱し暗記するには、この教科書がすごい適していると思いました。

その他の教科書でよかった点をお伝えさせていただきたいと思います。

「教育出版」さんに関しては、一つ一つの説明が丁寧に順を追っているので、わかりやすかった。

また、3年の「英語学習法」で、英単語の仕組みを説明していきまして、これが「Form」という基本的な単語で、その中の派生形の説明が「Information」であつたり「Uniform」などというイメージで連想させることで理解しやすくなっている。

これが単語を覚える際にすごく重要なんですね。

会話の中でも、言葉を推測しながら会話する機会というのは必ず増えてきますので、そういうときにこの一つの単語から想定させられるというこの提案ができるというのは素晴らしいと思いました。

「新興出版社啓林館」さんに関しては、各章の初めにインプット・アウトプットが明確になっているのが良いと思いました。

また文章が短く、会話形式となっているので、話すということに重点を置いているのが良いと思いました。

そして、見開きのページ構成として左半分が文章、右半分が質問、課題、単語の組合せとなっているので、子どもたちがわかりやすいのではないかと思います。以上となります。

○教育長（袴田毅君）

ほかに御意見等はよろしいでしょうか。

はい、田中職務代理。

○教育長職務代理者（田中恵吾君）

私も結論から申し上げますと、「三省堂」を推薦したいと思います。

正直言って、最後まで、「光村図書出版」を推すか、「三省堂」を推すか非常に悩みました。

というのは、「光村図書出版」につきましては、小学校の流れを生かした教材がより明確に取り入れられている点が挙げられます。

小学校で学んだことを生かせるよう、言語活動が多く取り入れられていきまして、高く評価できます。

しかしながら最初に述べましたように「三省堂」を推したのは、その理由は、一つは「サイコ

ロトーク」や「ランキングづくり」など、ゲーム要素を取り入れた活動、題材が多くあり、それに着目しました。

英単語の習得に関しては、絵辞典、「My Dictionary」がありました。

日常生活で頻繁に使用されるような言葉に触れることができるようになっていていると思います。

このことにより、生徒が英語に対する興味や親しみを持つことができると考えました。

もう一つの理由としては、中学校の英語教育では、より高度な言語スキルの習得が求められてくると思います。

文法や文書構成を学び、自分の考えや意見を書く、表現することが求められてくると思います。

このように、内容が高度になるということで、その教材について、中学生の視点から見る必要があると思っています。

「三省堂」の教材については、スポーツや非常食、あるいは社会的な公平の問題など、身近な題材を用いて、中学生の好奇心や発達段階に応じた内容が、私は提示されていると思います。

6名のキャラクターが登場するストーリーの展開は、私自身も、もっと知りたい、読みたいという気持ちにさせられました。

中学生も同じような気持ちになるのではないのでしょうか。

中学校から本格的に始まる「読む」、「書く」といった課題にも、主体的に取り組むことができ、英語を使ってコミュニケーションをとるための基礎を築くのに役立つと考えます。

さらに、より深い理解や表現力を綾瀬の生徒たちが身につけることを期待しています。

以上の観点から、私は、「三省堂」の「NEW CROWN English Series」を推薦したいと思います。以上です。

○教育長（袴田毅君）

他に御意見等はよろしいでしょうか。

（ 質疑等の有無確認 ）

○教育長（袴田毅君）

それでは、質疑・討論なしと認めます。

これより、「英語」について採決いたします。

それでは、発行者名を順に読み上げます。

「東京書籍」2名です。

「開隆堂出版」0名です。

「三省堂」2名です。

ここまでで、全員の挙手が終了しましたが、過半数に達しておりませんので、私の意見を述べ

させていただきます。

まず、どの教科書も小学校の学びとの円滑な接続を意識したものとなっていました。

また、どの教科書も英語の4技能がバランスよく学べる工夫がされていました。

ところで、現在の中学校1年生は、新しい学習指導要領が完全に実施され、小学校3年から外国語活動、5年から教科としての英語を受けた初めての学年です。

また、令和7年に入学する1年生は2回目の学年となります。

小学校英語との接続が円滑に行われているのか、また、小学校英語との円滑な接続を考える上での教科書はどうあるべきかは、今回の採択の重要な視点になると考えております。

以上のことを踏まえた上で、今回の採択では、私は英語の教科書では次の2点に注目しました。

まず1点目は、英語が苦手な生徒にとっても、取りかかりやすい工夫がされていたり、とても見やすい、読みやすい文字の大きさになっている点。

2点目は、外国につながるのある生徒が多い本市において、様々な人や文化に触れながら、社会の多様性を理解できるように教材が工夫されている点。

以上の2点から、私は、「三省堂」を採択することに賛成であります。

よって「英語」については、「三省堂」採択することに決しました。

最後に「道徳」について審議を行います。

事務局の説明を求めます。教育指導課長、お願いいたします。

○教育指導課長（春木純子君）

「道徳」について、報告いたします。

検討結果報告書の37ページから39ページを御覧ください。

「道徳」は、「東京書籍」、「教育出版」、「光村図書出版」、「日本文教出版」、「Gakken」、「あかつき教育図書」、「日本教科書」の7者について協議・検討を行いました。

「日本文教出版」は、「道徳ノート」がついている点や、綾瀬市に関わる「さかなのなみだ」が扱われている点、いじめについて3回学習する構成になっている点が良く、また、「Gakken」は、生徒の心に響きやすく、振り返りながら考える提示の仕方が多い点、落ちついて教材に向き合うことができるような視覚支援がなされている点が良いという意見がございました。

採択検討委員会においては、「日本文教出版」は「道徳ノート」がついていることで、子どもたちにとっても、また教員側にとっても評価に活用できるという点、綾瀬市出身であるさかなクンが書いた「さかなのなみだ」という教材が掲載されている点、いじめについて年間の中で複数回取り上げるなど丁寧に扱っている点で評価が高く、また「Gakken」は、子どもに響きやすい教材や子どもが落ちついて向き合うことができる教材がある点、内容の提示の仕方や教科書

の写真の構成というところで優れている点で評価が高いという検討結果になりました。以上でございます。

○教育長（袴田毅君）

それでは、「道徳」に関しまして、質疑・討論がございましたらお願いいたします。

はい、平出委員。

○委員（平出恵子君）

私は、道徳の教科では、子どもたちに命の大切さを知り、優しさを持ち、前向きに生きることが学んでほしいと願っています。そのような思いで、採択に当たりたいと思います。

7者の道徳の教科書を読ませていただきました。その中でも、印象的だった3者について、申し上げます。

まず1者目、「東京書籍」の教科書については、教材の後に「プラス」というコラムがあり、生徒が興味を持ちそうな内容が数多く取り上げられていました。

『「やればできる」という言葉があったから」という高岸選手の笑顔とコラムには、生徒たちが勇気づけられることと思います。

また、「決断！ 骨髄バンク移植第一号」や、星野富弘さん、津田梅子さんに関する作品は、生徒たちにぜひ読んでほしいと思いました。

次に2者目、「教育出版」の教科書では、「いじめをなくそう」というテーマのユニットページが全学年にあり、SNSや部活動など、学校生活の身近なシチュエーションから起こりうる問題を取り上げ、自分も相手も尊重する、コミュニケーションの方法を考える教材がありました。

さらに、いじめについて深く考えるためのコラムページも設けられ内容も丁寧に扱われていました。

このユニットページ以外にも、いじめや人とのつながりについて考える興味深い教材は数多くありました。

最後に3者目、綾瀬市で現在使用している、「日本文教出版」の教科書についてです。

最初に目についたのは、新しい教材である「葉っぱ切り絵で見た道」です。

リトさんという方が、自身の障がいの特性を知り、人一倍高い集中力を生かし、1枚の葉っぱに動物たちとの物語を切り抜くリーフアーティストとして生きる姿が取り上げられていました。

自分と周りを比べるのではなく、自信を持ち、広い世界にチャレンジすることの大切さを学ぶ内容でした。

リトさんが毎日SNSに投稿する作品はどれも、優しさにあふれ、生きる勇気を感じる素晴らしい作品です。

この教材を通して、生徒たちが自信を持ち、前向きに生きることの素晴らしさを感じてほしいと思います。

また、「命を見つめて一猿渡瞳さんの六百四十六日ー」という教材は、中学生の瞳さんの壮絶ながんとの闘いを通じて、命の大切さ、尊さや生きる意味を伝える作品です。

瞳さんは、命がけで作文を書き、弁論大会に臨み、最後の1日まで、諦めずに生き抜きました。

今回の新しい教科書では、新たにQRコンテンツにより、瞳さんの生の声のスピーチを聞くことができ、力強く澄んだ声に感動しました。

この教材で生徒たちも、命の大切さを学び、強く生きることを感じると思います。

さらにSDGsに関する内容として、いじめや情報社会、環境問題なども丁寧に取り上げられていました。

そして、付属の「道徳ノート」は、従来のものよりも、書くスペースが広がり、自分の考えや友達の意見を自由に記入できるよう進化しており、より深い学びができるように感じました。

どの出版社の教科書も、生徒たちに読んで、感じ、考えてほしい、素晴らしい教材が多くあり、その中から、1者を選ぶのは大変難しいのですが、私は「日本文教出版」を推薦させていただきたいと思います。以上です。

○教育長（袴田毅君）

はい、ほかに御意見はよろしいでしょうか。

はい、亀ヶ谷委員。

○委員（亀ヶ谷由美子君）

子どもたちのいじめや自死が年々増加しているこの時代で、考え直すきっかけや、引き返す原動力の一つに道徳教育があると思っています。

自分自身の心と身体を守り、相手の立場に立って物事を考えること。そして、人が成長していく過程で欠かせない、「想像する力」。その力を豊かに育てる教科が道徳だと思います。

今回は7者の教科書を時間をかけて読み、特に心に残った3者についてお話しさせていただきます。

「G a k k e n」は「心で見なくちゃ、ものごとはよく見えないってことさ。かんじんなことは、目に見えないんだよ。」というサン＝テグジュペリの言葉がとても印象的でした。

道徳教育にふさわしい言葉だと思います。

また、「百年たっても」では、スペイン風邪が流行していた約100年前に志賀直哉が書いた「流行感冒」という小説を通し、感染者への様々な偏見について、「あなたはどのような選択をして、どう行動するのか」と問われたことを例に、新型コロナウイルス感染症が世界中で流行し

ている中で、「百年後の社会を生きるあなたは、この問いにどう答えますか。」と子どもたちに問いかけていました。

また、領民を愛した名君、上杉鷹山は、「なせば成る、なさねば成らぬ何事も」という誰もが一度は耳にしたことのある言葉を残した人で、ジョン・F・ケネディが大統領就任の際に、日本で最も尊敬する政治家と言われた人です。

17歳で財政困難に陥っていた米沢の藩主になり、藩民を思いやりながら、自身は儉約に努め、藩の再興を誠実に実行した上杉鷹山が、決意を貫き通せたのはなぜだろうという問いかけに、子どもたちは何を思うのかと考えました。

できることなら、今の日本を動かしている方々にも読んでもらいたいと強く思います。

そして、「東京書籍」ですが、「私のせいじゃない」という、これは前回も掲載されていたと思いますが、いじめの責任の在り方について考える題材で、9枚の絵カードには、自分のせいではないという言い訳が書かれていて、いじめられている子どもは、涙を流して、顔を両手で覆っている、本当に切なくなるような絵です。

『私のせいじゃない』と言っているが、泣いている子はどのように思っているだろう、「いじめについて、私は関係ないと言っている人たちには、どのようなことが必要なのだろう」ということを問いかけています。

傍観者としてひとくくりにしてしまうのではなく、それぞれの言い訳についても、なぜそう思うのか、どうしたら良いのかを考えてもらいたいと思いました。

最後に、自分のつぶやきを書く場所があります。

子どもたちが、どのような言葉を書くのか、思いやりの言葉がたくさん書かれるような道徳の授業になってほしいと思います。

そして、一番胸が苦しくなってしまったのは、「世界の平和を願って AI とカラー化した写真でよみがえる戦前・戦後」でした。

広島に投下された原子爆弾によるキノコ雲と、その直撃を受けた原爆ドームのモノクロ写真がカラー写真で掲載されていました。

原爆で親族を失った方が、この写真を見たら胸が潰れてしまうと思います。

教科書では、カラー写真になることで、どのように印象が変わるのか、平和を維持するためにどのようなことを大切にしたら良いのかと問いかけていました。

「戦争と平和」を自分事として捉え、想像してみてほしいと思います。

「光村図書出版」には、小学校の「せいかつ」の教科書にも取り上げられ、温かいイラストと、穏やかながらにも心に響く言葉であふれているヨシタケシンスケさんのコーナーが掲載されてい

ました。

「正義って何だろう」、「ゆるすって何だろう」といったことに対しての言葉に、改めて考えさせられてしまいます。

そして最後に、「日本文教出版」ですが、教科書のほかに、道徳ノートがついているので、題材ごとに、自分の考えやグループでの意見、話し合いの内容を書くことができます。

「さかなのなみだ」は、綾瀬市出身のさかなクンの作品です。

「大切な友達ができる時期、小さななかごの中で、誰かをいじめたり悩んだりしても、楽しい思い出は残りません。外には楽しいことがたくさんあるのに、もったいないですよ」と、子どもたちに語りかけてくれています。

また、「怒りの感情と上手に付き合おう」というコーナーでは、怒りの温度計と怒りの感情の静め方の解説がありました。

これは、アンガーマネジメントにつながるもので、怒りに任せて、気持ちを爆発させることのないように、そんなときこそ冷静に怒りを静める方法で乗り越えてほしいと思います。

また、「葉っぱ切り絵で見た道」では、作者のリトさんが、素晴らしい切り絵のアートとともに、自身が発達障がいだとわかったときに、自分の「できないこと」ではなく、「できること」を探してみようとしたことや、低かった自己肯定感に悩んだ過去が、自信を持つことによって、自分にしかできないことを見つけられたことなどが書かれていました。

「人生にはいろいろ選択肢があることに気づきました」というリトさんの言葉を子どもたちにも伝えたいと思います。

そして、塚本こなみさんの「木の声を聞く」は、あしかがフラワーパークの大藤を移植した日本で初の女性樹木医の方のお話です。

前回の採択で初めて塚本こなみさんのことを知り、いつかお会いしたいと思っていたところ、昨年偶然に塚本さんの講演会へ行く機会に恵まれ、お話を聞くことができました。

「木の声を聞く」ことの大切さ、そのことを生かして、今は不登校支援の活動もされています。植物には人間復元力があるとお話しされていたことにとても感銘を受けました。

綾瀬の子どもたちもしっかりしたふかふかの教育という場の土壌でのびのび育ってほしいと思います。

また、「命を見つめて」は、小学校6年生で骨肉腫になってしまった猿渡瞳さんについてのお話です。

読んでいて、途中で涙があふれてしまい、少し中断しました。

本当の幸せは「今生きている」ということ。

「人と人が殺し合う戦争や、平気で人の命を奪う事件」を悲しみ、命を軽く考えている人たちに、病氣と闘っている人たちの姿を見てもらいたいと訴え、「命さえあれば、必ず前に進んでいける」と呼びかけていました。

この言葉をしっかり受け止められる道徳授業をして、子どもたちに、改めて命の大切さを学んでほしいと思います。

道徳の教科書はどれも素晴らしく、大変悩みましたが、私は一番心に残り、子どもたちにも読んでほしいと思えた「日本文教出版」を推薦したいと思います。

○教育長（袴田毅君）

ほかに御意見はよろしいでしょうか。

はい、田中職務代理者。

○教育長職務代理者（田中恵吾君）

結論から申し上げていくと、私は「日本文教出版」を推薦したいと思います。

道徳の授業では、生徒一人一人が自分事として考え、将来の生き方を見つめさせることが大事だと思っています。

そのためには、生徒の心を揺さぶる資料、これが必要と考えています。

例えば「あかつき教育図書」では、いじめの問題など、いろいろな課題に触れる資料を使っています。

具体的には、羽生結弦さんや大谷翔平さんなどのスポーツ選手も多く取り上げられています。

また、「日本教科書」では、「ウェルビーイングカード」を使って、協働する力を育てています。

特に女性に関する題材が多く使われていることが特徴だと考えました。

ノーベル平和賞受賞者のマララさん、デザイナーの森英恵さん、日本で最初に女性で医師になった荻野吟子さんなど、多くの女性が題材になっています。

そうした中で最初に述べましたように、私が「日本文教出版」を推薦した理由を3点だけに絞って、説明をしたいと思います。

まず1点目は、写真や漫画、イラスト、投稿などがバランスよく使われていて、とても素晴らしいと感じました。

特に強く印象に残るのは、高橋陽一さんの「サッカーの漫画を描きたい」です。

「キャプテン翼」の漫画が紙面に大きく掲載されていました。

そのほかにも、視覚的にわかりやすく、興味を引く資料が多く、生徒が自分事として考えやすいと思いました。

2点目です。

題材が幅広く取り上げられています。

柔道家の井上康生さん、科学者の山中伸弥さん、中村哲さんなどの登場者が1年から3年までのつながりの中で考えられています。

先ほどもお二人の方からお話がありましたが、2年生で「命を見つめて」、3年生では、「希望」、さらに1年生のときには、「夢に向かって」、こういったことが、載せられています。

特に、「命を見つめて」の猿渡瞳さん、それから、3年の最後にある「希望」、これは佐々木莉乃さん、中学生が主人公になっています。

これも先ほどありましたが、QRコンテンツを活用すれば、登場人物の生の声が、聞けます。

私もこれを見たときに、恥ずかしいのですが、涙が出てきました。

このように、生徒の発達段階や特性などを考慮した配列が優れていると感じました。

そして最後に、別冊の「道徳ノート」があるということです。

これに感じたことや、友達と議論したことを振り返りやすくなります。

ほかの教科書にも、プリントで、そういうようにつくるものはありましたが、1冊になっているということで、自分は、ポートフォリオ的に活用できると。

そして、その1冊を見ることで、自分自身を振り返ることができる。

そういうツールになると確信しています。

以上のことから、私は、「日本文教出版」の「中学道徳 あすを生きる」を推薦したいと思います。以上です。

○教育長（袴田毅君）

ほかに御意見等はよろしいでしょうか。

（ 質疑等の有無確認 ）

○教育長（袴田毅君）

質疑・討論なしと認めます。

これより、「道徳」について採決いたします。

それでは、発行者名を順に読み上げます。

「東京書籍」0名です。

「教育出版」0名です。

「光村図書出版」0名です。

「日本文教出版」4名です。挙手全員であります。

よって、「道徳」については、「日本文教出版」を採択することに決しました。

以上で、中学校教科用図書の全ての種目の採択が終了しました。

これにて、「第20号議案 令和7年度使用中学校教科用図書の採択について」の審議を終了いたします。

○教育長（袴田毅君）

「日程第3 第21号議案 令和7年度使用小学校教科用図書の採択について」、この件を議題といたします。

それでは、本件に関し説明を求めます。教育部長、お願いいたします。

○教育部長（長谷川裕司君）

それでは、「第21号議案 令和7年度使用小学校教科用図書の採択について」、御説明いたします。

議案書の5ページを御覧ください。

提案理由でございますが、中段に記載のとおり、令和7年度使用小学校教科用図書を採択するため、綾瀬市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第2条第1項第14号の規定により提案するものであります。

小学校教科用図書につきましても、中学校教科用図書と同様、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条の規定により、種目ごとに同一の教科用図書を採択する期間は、毎年度、種目ごとに同一の教科用図書を採択するものとし、その採択期間は4年間となっております。

現在、小学校で使用している教科用図書は、令和5年度に採択され、令和6年度から令和9年度までの4年間使用することとなっております。

本年度は採択替えの年ではありませんが、採択替えのあるなしにかかわらず、毎年度採択することとなっておりますので、令和7年度に使用する教科書について、議案書6ページの一覧表に記載のとおり、令和5年度に採択したものと同一の教科書を採択することについてお諮りするものでございます。

以上で説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○教育長（袴田毅君）

それでは、第21号議案に関しまして、質疑・討論がございましたらお願いいたします。

（ 質疑等の有無確認 ）

○教育長（袴田毅君）

質疑・討論なしと認めます。

これより、第21号議案を採決いたします。

本件を原案のとおり決することについて、賛成の委員の挙手を求めます。

(委員の挙手確認)

○教育長（袴田毅君）

挙手全員であります。よって、本件は原案のとおり可決されました。

○教育長（袴田毅君）

「日程第4 第22号議案 学校教育法附則第9条の規定による令和7年度使用教科用図書の採択について」、この件を議題といたします。

それでは、本件に関し説明を求めます。教育部長、お願いいたします。

○教育部長（長谷川裕司君）

それでは、「第22号議案 学校教育法附則第9条の規定による令和7年度使用教科用図書の採択について」、御説明いたします。

議案書の7ページを御覧ください。

提案理由でございますが、中段に記載のとおり、令和7年度使用小・中学校特別支援学級の教科用図書を採択するため、綾瀬市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第2条第1項第14号の規定により提案するものであります。

特別支援学級の児童・生徒につきましては、学校教育法附則第9条の規定により、8ページ以降の教科書目録に記載のもののほか、障がいの種別や程度に応じ、指定された教科用図書以外の一般図書を教科書として使用することが認められております。

以上で説明とさせていただきます。よろしくをお願いいたします。

○教育長（袴田毅君）

それでは、第22号議案に関しまして、質疑・討論がございましたらお願いいたします。

平出委員。

○委員（平出恵子君）

教科書は主に、支援級の児童・生徒一人一人に合わせた教科書ということになると思いますが、実際に教員がこの教科書の内容を手にとって閲覧するような機会はあるのでしょうか。

○教育長（袴田毅君）

はい、教育指導課長。

○教育指導課長（春木純子君）

特別支援学級の教員が手にする機会としましては、毎年5月中旬ごろに5日間程度、神奈川県立総合教育センターにて展示機会が設けられております。その機会に確認することができます。

○教育長（袴田毅君）

他はいかがでしょうか。

（ 質疑等の有無確認 ）

○教育長（袴田毅君）

それでは質疑・討論なしと認めます。

これより、第２２号議案を採決いたします。

本件を原案のとおり決することについて、賛成の委員の挙手を求めます。

（ 委員の挙手確認 ）

○教育長（袴田毅君）

挙手全員であります。よって、本件は原案のとおり可決されました。

ここで暫時休憩いたします。

なお、再開後の審議につきましては、非公開審議となりますので、傍聴者におかれましては、御退席いただきますようお願いいたします。

（ 関係者以外の退席 ）

非公開の審議

○教育長（袴田毅君）

以上で、本日の日程は終了いたしました。

これにて、綾瀬市教育委員会会議 7 月定例会を閉会いたします。

午後 6 時 4 分 閉会